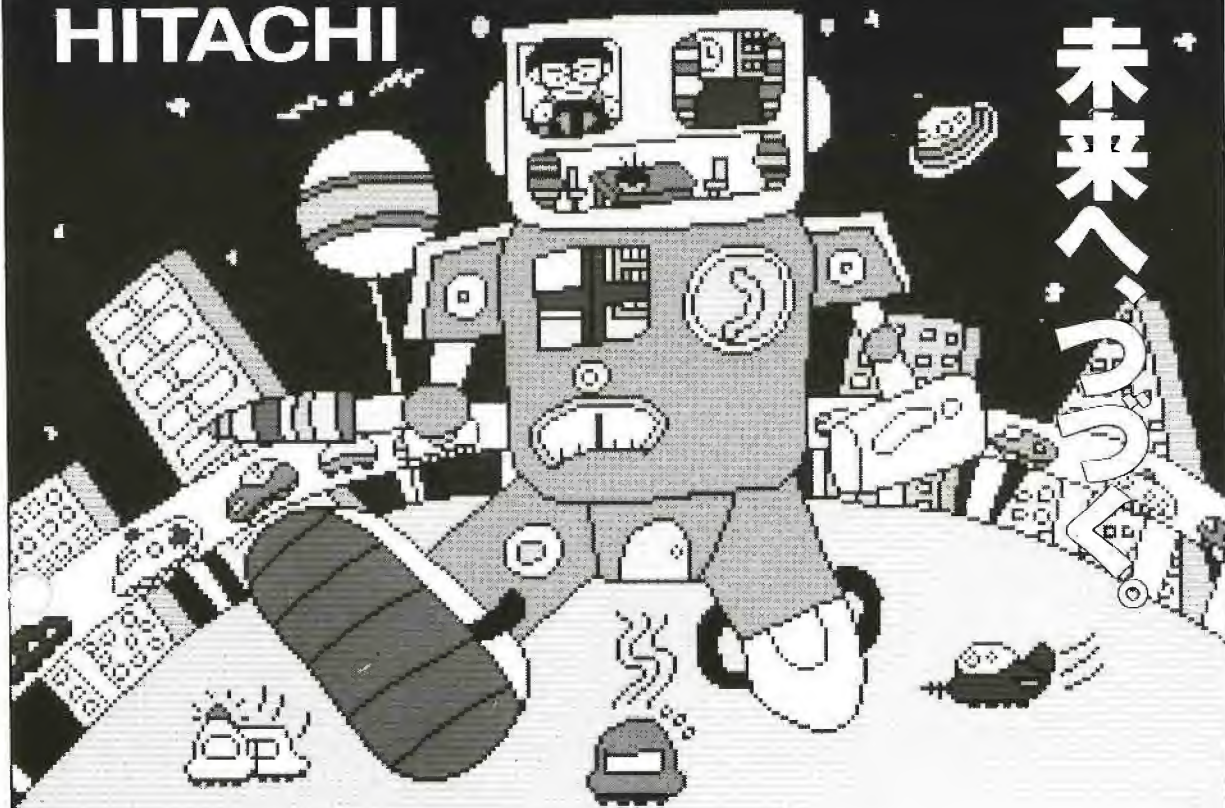


HITACHI

未来へ、つづく。



人がいて、街があって、豊かな社会があり、快適な生活がある。

そんな私たちのくらしも、そう、調和をめざす技術の力で支えられているんですね。

上の絵は、小学6年生のCG(コンピュータ・グラフィック)アーティスト、

瀧本大介くんが描いてくれた「ロボット・ハウス」。

おうち全体がロボットになっていて、どこにでも行けるんですって。

次の、次の世紀くらいかな。こんなロボットが大活躍する日だって、来るかも知れません。

夢を見る力。夢を叶える力。未来へ、つづく。日立です。

ロボット・ハウスのお通りだい。

人と技術の理想をめざす

Interface

アジアハンドボール選手権大会 開催日、開催地決定

去る4月22日にアジアハンドボール連盟より今年度開催される第7回男子、第4回女子アジアハンドボール選手権大会開催について右の通り決定の連絡があった。

男子

9月24日～10月5日 バーレン
(マナマ市)

女子

8月12日～18日 中国(汕頭市)

第1回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会

最優秀選手に選ばれて

函館市立凌雲中学校ハンドボール部 ★★★★★★

男子

三田 誠

名前を呼ばれたとき、正直いっておどろきました。と同時に頭の中を駆けめぐったものは、準決勝の自分の姿でした。何をあせっていたのかミスの連続。チームメイトに迷惑ばかりをかけているそんな姿でした。本当に自分なのだろうか、もしかして誰かと名前をまちがえたのでは、などと何度も自分自身に問いかけました。優勝したことも、夢の中のできごとのような感じでした。ましてこんなすごい賞をもらうとは、本当に現実のことなのか一瞬とまどいがありました。言葉に表わせないほどの感激でした。

しかし、この感激も僕一人の力で得られたものではなく、チームを代表する形で僕に与えられたものだと思う。ハンドボ



ルを始めて一年半でここまでこれたのは、チームワークの良さ、そして、監督のきびしい指導があったからだと思っています。

今、北海道に戻り、この大きな喜びをしみじみとかみしめています。しかし、僕に与えられた大きな期待と、責任の重さに、どんな形で応えることができるのでしょうか。今までの自分を振り返りながら、明日からの自分を、謙虚な気持ちで忘れず、さらにきびしい態度で、練習に取り組もうと思っています。

女子

岩国市立河内中学校女子ハンドボール部 ★★★★★★

藤長 靖子

「最優秀選手賞、岩国市立河内中学校、藤長靖子さん」。

私は何も知らず、特別賞を受けるチームメイトの芝明美さんのつきそいとして、閉会式に出ていました。芝さんが受賞したあと、最優秀選手賞の発表で私の名前が呼ばれた時、とてもおどろいて目の前が真っ白になり、本当に自分なのか信じられませんでした。でも目録とトロフィーをもらった時、

今回対戦したチームには、個人プレーヤーとして、優れた選手が何人もいました。学ぶべき点も数多くありました。しかし、その中でより強く感じたのは、ハンドボールはチームワークの競技だということです。一人ではどうしようもありません。僕たちのチームの中で僕がずばぬけている訳でもありません。同じ様な力をもった仲間が、皆それぞれの力を出しきれたことが勝利につながったのだと思います。今後は、ハンドボールの選手としてだけではなく、中学生として恥じない生活を送り、より高い目標に向かっていこうと思っています。

天にも昇る心地でした。

この試合で私たちのチームは2回戦で開催地の玉出中に負けてしまい、涙を流してしまふほどやしい思いをしました。それと同時にいろんな課題も見つかりました。試合も終わり、時がたつにつれて私が受けたこの賞の偉大さをひしひしと感じています。

私がこのようなすばらしい賞を受けることができたのは、決して



私一人の力ではなく、まわりの人たちのおかげです。いそがしい中、熱心に指導して下さったコーチの織田先生、心底から私たちのことを考えて下さった顧問の小坂先生、力をぬかずに相手をして下さった岩国商業高校のハンドボール部員の人たち、その他いろいろな方々。なにより私がここまでこれたのは、苦しい練習でいつしよに汗を流し、試合でもいろいろアドバイスをしてくれたチームメイトがいたからだと思っています。練習でディフェンスをしてくれたレギュラー以外の人や、試合でディビングを切ってくれた人たちに、私は一番感謝しなければいけないと思います。

試合に負けた時のくやしき、そして私を支えてくれたたくさんの人たちへの感謝の気持ちを忘れないうちに、このすばらしい賞をいただいたことをはげみに、いままです以上に一生懸命練習して、最優秀選手賞にはじない選手になりたいと思います。

★ 第1回JOCジュニアオリンピックピックカップ・ハンドボール大会観戦記

夢と感動との出会い

日本オリンピック委員会選手強化本部常任委員 市原 則之

第1回JOCジュニアオリンピックカップ・ハンドボール中学生大会の成功を心からお慶びし、同時に大会開催に当りご尽力された関係者の皆様に深く敬意を表します。

ご承知の通りJOCでは、選手強化事業ジュニア対策の一環として、将来オリンピック競技大会や世界選手権大会等で活躍が期待できるジュニア選手を発掘・育成するために「JOCジュニアオリンピックカップ事業」として各競技団体を支援することになりました。この主旨を迅速に理解し実施の判断を下した日本協会や、紆余曲折の中にも勇気を持って実行に当たった中体連、並びに大阪協会の皆様に心から感謝する次第であります。スポーツには「夢と感動」がなければと言われますが、当大会を観戦するに当り、忘れていた純真なスポーツマン魂が刺激され、目に涙さえ浮かぶ感動の場面に出合う幸を得ました。また、選手の競技に対する直向きな姿や、ここまで熱意をもって育てられた指

導者に接し、スポーツ教育の重要性を再認識させられました。つまり、一般にスポーツを行うに当り三つの効用があると言われますが、その効用とは、

一、逆境に強くなる（スポーツは筋書のないドラマ、常に緊張と逆境の中でプレーし、よって不屈の精神が養われる）。

二、フェアプレーの精神が醸成する（レフェリーによって公平に裁かれ、忠実なプレーに徹する）。

三、よい友を得る（チーム内では、労り合い、助け合い、励まし合うチームワークでの友情が生まれ、競技の中では、相手の痛さ、苦しさ、悲しさを知り終生の友達を得る）。

以上のことが充分備われば、単に技術的に、将来性豊かなジュニア選手を啓発し、国際舞台において世界のトップアスリートたちに伍して競技できる選手の育成のみでなく、スポーツを通して、友情

・連帯感・フェアプレーの精神をもって相互に理解し合う、いわゆるJOCの求める「オリンピック精神」の高揚に結びつくものだと考えます。

こうした意味に於いて、当大会で初回の男女優秀選手に選ばれた北海道選抜の三田誠君と、山口県河内中学の藤長靖子さんは、この大会の主旨に添って当然選ばれるべきして選ばれた選手であったと断言できます。

男子の三田君は、オリンピック有望候補選手にも指定され、現在でも超高校級の身長を有し、また将来、もつと伸びるであろうという体形に恵まれ、しかも学業優秀で、指導に当らている先生が保証される程の素直な性格の持ち主と聞けば、近い将来必ず日の丸をつけて世界の檜舞台で活躍してくれそうな期待と夢を与えてくれる近年稀な選手でした。

また、女子の藤長さんは、小柄ながらも抜群の運動神経で鋭いフエイントと力強いシュート力を有し、将来代表選手として日本独特



なスピード豊かなハンドボールをしてくれるであろうという期待を与えてくれる選手でした。それから、特筆すべきことは、神田大阪協会長より特別賞が贈られた芝明美（山口河内中さん）である。彼女の一挙手一投足が総ての観衆の胸を打ち、ハンディのある体を十二分に駆使してプレーする姿は、多くの人々に感動と人生への勇気を与えてくれました。正にスポーツ精神で一番大切な逆境に挫けない不屈な精神の持ち主であり、またこうした我々の称賛が彼女には迷惑であるような健全な心も兼ね備え、将来の人生を力強く生きていくであろうと確信した素晴らしい選手でした。

その他、将来を期待されるオリ

ンピック有望候補選手に、北海道選抜の沢田俊祐君と、大阪府玉出中学のGK鈴慶子さんの優秀選手二人が選ばれ、将来を嘱望されております。

しかしながら前述の4名だけでなく、今大会に参加した男女290名の選手の中には沢山の有望選手が含まれ、将来日本ハンドボール界の中核で活躍してくれるであろう楽しみを抱かせてくれました。尚、チーム優勝は、地域の優秀選手をピックアップして練習を重ねた選抜チームに一日の長があり、男子・北海道選抜、そして女子は富山選抜がそれぞれ優勝し、真新しい優勝旗を持ち帰りましたが、単独チームで準決勝まで進んだ男子の沖縄県神森中学や、同じく女子で決勝まで進んだ熊本県の佐伊津中学の活躍も特筆すべきものがありました。

以上の通り、第1回大会は幾多の感動と沢山の思い出を残した意義ある大会となり、関係者の一人として大変嬉しく思っております。どうか、来年、再来年と回を重ねる毎に、当大会から沢山の心身共に優秀で、将来を託せる有望選手が生まれることを願い、最後に当大会開催に当りご尽力頂いた関係各位に、重ねて厚く御礼を申し上げさせて頂きます。

精一杯のパフォーマンス

日本ハンドボール協会強化委員 蒲生 晴明

1、はじめに

1992年度の最後を飾って、大阪府堺市において標記の第1回JOCジュニアオリンピックハンドボール大会が盛大に開催されましたことは、我々ハンドボールに携わる者にとって、このうえない喜びでした。地元堺市をはじめ、大阪ハンドボール協会・地元ライオンズクラブの皆々様、日本協会関係者の方々の絶大なご支援、ご厚情により、実現したわけですが、そのご尽力に對しまして、深く感謝するところです。

さて、記念すべき第1回大会の開会式で「激励の言葉」を話す栄をいただきましたが、そこで、選手たちに将来大きな「夢」と「目標」を持つことを話しました。さらに、「心・技・体」それぞれについて、ひとつずつお願いをいたしました。

「心」：大好きなハンドボールを継続すること

「技」：先生が何をポイントに指導しているか良く理解してプレーすること

「体」：良く食べること

以上の3点ですが、精神的にも身体的にも成長が著しいこの時期

に、相応しい言葉だったかと思いますが、私の素直な気持ちでした。将来の日本を代表する選手に育っていくことを楽しみに期待したいと思います。

2、大会観戦について

全国の中学生が、この時期にコート狭しと精一杯のパフォーマンスを見せてくれました。強化担当のものとして、たいへん逞しくまた微笑ましくも感じました。

今大会は、将来のオリンピック選手を発掘することとジュニア層の普及発展も含めた意味の大会でありましたが、そのとおり近年になく素晴らしい選手が数多く参加し、ハラハラ、ドキドキの内容のあるゲームが繰り広げられました。中でも、身体ができつつあるこの時期において(13、14才)、しっかりしたプレーをしていることに感心した次第です。私は、ハンドボールを始めたのが高校に入学してからだったので、中学生でもこんなに素晴らしいプレーができるのか!と驚かされました。そう言った意味で、指導された先生方の情熱と指導力に對して敬意を称したいと思います。

次に、ゲームの中で気が付いた

良かった点と氣になった点を挙げますと、

◆良かった点

(1) 40分のゲームスタミナが十分ある。

(2) ゲームの流れを自分たちで感じとっており、勝負のポイントを心得ている。

(3) 基本的な動作を忠実に実行しようとしている。

◆氣になった点

(1) パス・キャッチの基本動作・フォームが未成熟

(2) ボディーコントロールの基本動作として、特にストップのフォームとその方法

以上、氣が付いた点をダイレクトに述べましたが、13、14才の選手がゲームの流れまでコントロールしていることに驚かされたのですが、果してこの事が今必要であるかどうか(?)考えさせられました。また、基本動作について、忠実に実行しようとしています。ハンドボールの経験年数が浅いこともあって、現時点では発展途中と感がありました。しかしながら、基本のフォーム構築は、ハンドボールを始めたときにこそ、十分にジックリ時間を掛けて実施するべきであ

ると考えるところです。ナショナル選手にも基本動作について、矯正ができないままのものがいるのも事実であります。色々とお話を聞きますと、基本練習ばかりだと「飽きてしまう・辞めてしまう」という現象が起きているようですが、ぜひ、楽しい基本練習・愉快的な基本トレーニングを考えてみてください。

私見ですが、ナショナル選手に指導する基本も中学生・小学生に指導する基本も変わるはずはないのです。例えば、野球の場合、バントの仕方がプロ選手と中学生で異なることはないはずで、そう言った意味で、指導方法・手段が違うだけであり、基本動作は変わらないはずで、どうか、手を変え品を変え、選手たちが興味を示すようなユニークな基本トレーニングを考案し、底辺の拡大と素晴らしい選手の育成に役立ててください。

3、まとめ

おわりに、日本がアジア・世界で勝っていくにはジュニア層以下からの発掘・指導が不可欠です。ぜひ、ハンドボール界がこの件に関して、英知を結集して今大会の継承と選手育成に努力されることをお願いしたいと思います。

最後になりましたが、今大会のためにナショナル選手を派遣していただいた各チームの関係の皆様、厚くお礼申し上げます。観戦記とさせていただきます。

Power & Intelligenceで
ゆたかな活力あふれる北陸を



北陸電力

取り組む態度や姿勢に好感

日本ハンドボール協会強化委員 櫻塚 正一

第1回JOCジュニアオリンピックカップが2月下旬、大阪市堺に於いて開催されました。JOCが中学生を対象として各種目から将来の日本スポーツ界を担う選手の発掘を目的とする大会で、興味深い観戦になりました。

中学生の大会を本格的に観ることは久しく、大きさ、運動の能力、技術、試合展開の総てに未知で、関係する諸先生方に現状を教えてもらいながらの観戦でした。

中学時代は、3年間の期間で身体の変化が著しい時であり、中学生の指導は我々が想像する以上に難しく、個別指導は繊細でなければいけないと教えて頂きました。

今大会は1、2年生で参加しており、1年生と2年生の違いは大きく、男女の比較では男子が大きく、骨格も太くたくましい身体付きが眼につきました。男子に比べ、女子は可愛い感じが印象的です。

1回戦から決勝戦までを観戦して感じたことは、試合では展開途中の所々のミスも少なく、上手にボールを運んでいたこと、2回戦以後は展開も早く、変化にも眼をみはるものが有りました。男子では最終的であるシュートもダイナミ

ックであったり、シャープであったりして、使っているテクニクのおもしろさに驚き、また取り組む態度や姿勢にも好感がもて、新鮮な気持ちで試合展開を見ることができました。

攻撃を行って、シュートが得点



に結びついた時の笑顔のすがすがしさを忘れることは出来ません。近年、パワーや速さを追求する試合の展開が一般的な傾向となり、その為に防御活動がラフとなつて警告や退場が多い。大会では、この様なラフなプレーも少なく、手

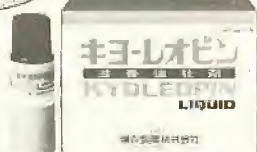
の使い方に對する指導がよく行き届いていることに感心した。男女共まだ完成された身体や技術の使い方では無く、この年代には無理なプレーを見ることがあつたが、金般的には自分たちの環境に合った技術の選択が出来ていたように思います。男子にはパワーハンドボールが眼につき、女子には柔らかなコンビの組み立てを技術の中に見ることが出来た。試合展開で、1日目の試合コートが少し短く、女子には短いコートの方が展開の速さ、プレーの継続も、相手コートに到達する時間の長さも丁度よく、無理なくゲームを行っているように思えた。

男子は力が有り、短いコートでは長さが短すぎ、攻撃から防御に変わる時間が短く、防御の体勢を作ることが大変であつた。この年代の試合を男子は正規のコートで女子は短いコートでの実施の希望を伝えます。

試合会場は応援する人たちがあふれ、2日間すごい熱気につつまれておりました。大会を準備された関係諸氏も、準備期間の短さに大変な御苦労が有つたと聞き、出場したチームの出場枠や諸経費のことが大変困難をきわめたとも耳にして、大会の意図が達すると同時に関係する現場の諸氏が充実感や満足感を得られる大会へと発展することに期待を持ち、観戦記を終りたいと思います。

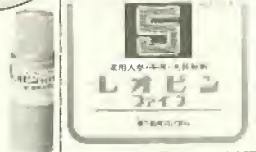
ねばりは頑張り 気力は体力

医薬品



キョーレオピン

医薬品



ショピンファーフ

効能・効果

- 滋養強壮 ●虚弱体質
- 肉体疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害
- 発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給



湧永製薬株式会社

●札幌 011(747)2166 ●東京 03(3293)3351 ●名古屋 052(971)5901
●大阪 06(458)8901 ●広島 082(264)4116 ●福岡 092(481)7382

1993年度男子ナショナル
A選手及び'94アジア競技
大会第1次候補選手

G・K 橋本 行弘
林 康一
河野 裕光
C・P 魚住 和彦
梅基 幸一
末岡 政広
田中 茂
高木 浩司
渡辺 浩
三輪 澄高
林 昌英
田中 雅彦
源内 利之
平松 茂雄
中山 剛
佐藤 壮一郎
高田 浩志
岩本 真典
小沢 勝利
永山 強
富本 栄次
広政 宜孝

1993年度
男子ナショナルB選手

G・K 荒木 進
坪根 敏宏
日原 一幸
C・P 福村 正己
笠 哲也
小河原 洋行
小野 優志
藤井 孝
満井 健康
森岡 健二
日原 正和
木浪 達文
市原 剛次
辻 昇
笹浪 重俊

'94広島アジア大会

初優勝に向かって

男子ナショナルチーム監督 蒲生 晴明

1993年度男子ナショナルチームのメンバーの選考を3月に実施したところ、日本リーグプレーオフの直後、また年度の変わり目にもかかわらず、社会人・大学生とも負傷者を除き全員参加で行うことができました。これもひとえに所属の皆様のご支援、ご協力、ご理解の賜物と深く感謝いたします。

さて、選手たちは、その意欲と希望に満ちて、繊細なプレー・身体を張ったプレー等場面場面で好プレーを実施して大いに自分をアピールしていました。指導する側として、このような環境が最高と考えているわけですが、大変頼もしく思えるところです。結果については、次にご紹介するわけですが、今回は、来年(1994年)広島で行われるアジア大会の第1次候補選手として選考いたしました。今後、強化を実施していく中で最終的に代表を絞り込んでいく予定です。

選手たちが競い合い、その座を自分自身の手で勝ち取って、更に

男子ナショナルスタッフ

| | | | |
|---------------|-------|-----------|----------|
| 監督 | 蒲生 晴明 | 1954.4.5 | 大同特殊鋼 |
| ナショナルAヘッドコーチ | 田口 隆 | 1961.7.23 | 本田技研工業 |
| ナショナルAコーチ | 関 健三 | 1955.1.24 | 三陽商会 |
| ナショナルB監督兼Aコーチ | 松井 幸嗣 | 1957.7.6 | 日本体育大学 |
| ジュニア監督兼Bコーチ | 高橋 精一 | 1949.6.2 | 桃山学院高等学校 |
| ナショナルBコーチ | 奥田 新治 | 1961.6.11 | 湧永製薬株式会社 |

アジアNo.1(アジア大会優勝II金メダル)になることがターゲットであります。そしてこの結果がアトラントオリンピック出場への自信に繋がるものと考えております。どうか、皆様の熱いご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

そのためには、本年は、限られた期間のトレーニングになります。が、各チームでの個人トレーニング等を中心に選手たちが、自分自身で計画を立て実施していきます。したがって、所属の皆様のご支援、ご激励をよろしくお願いいたします。

最後に、93年度の男子ナショナルチームのスローガンと指向重点を紹介して結びいたします。

●スローガン●

* CREATIVE THINKING.....創造
* REAL ACTION.....実行
* BE SUCCESSFUL.....成果

●指向重点●

* 基礎体力&精神力の向上
* 基本技術の回復
* プレーのスピード化



奥田新治

ナショナルBコーチ



高橋精一

ジュニア監督



松井幸嗣

ナショナルB監督



関 健三

コーチ



田口 隆

ヘッドコーチ



蒲生晴明

監督

1993年 ナショナル選手 全紹介

①生年月日②年令③ナショナル入り年
度④国際試合数⑤身長⑥体重⑦利き腕⑧
所属⑨出身地⑩出身校⑪ニックネーム

GK

●橋本行弘

(はしもと・ゆきひろ)

①S 40年9月17日②27才③S 59
年④110試合⑤186cm⑥80
kg⑦右⑧本田技研⑨愛知県⑩岡
崎城西高校⑪ハッシー



▽寸評Ⅱ現日本チームのキャプテンとして、チームメイトを充分にまとめている。アジアNo.1になるための精神的なファインプレーに期待。

▼抱負Ⅱアトラクタ五輪候補メンバーに指名された時は、はつきり言って困惑しました。年齢的にも最年長という事で、若い選手の考

●林 康一

(はやし・こういち)

①S 42年3月3日②26才③H 3
年⑤181cm⑥78kg⑦右⑧大同
特殊鋼⑨福岡県⑩福岡大学



▽寸評Ⅱゴールキーパーとして、体格では劣るが、そのキーピングは迫力満点。キープ率50%が目標

である。課題は、確実性とコンビネーション。

▼抱負Ⅱ全日本がアジアでNo.1になり、オリンピックに出場するためには、韓国、中国に対して30得点以上取れる攻撃力と、25点以下に失点を抑えるDF、GKが必要だと考えられる。そこでGKである私自身の役割は、一本でも多く相手シュートを阻止する事であるが、特に全日本チームのDFシステム上、サイドシュートの本数が増えると考えられるので、サイドシュート阻止率7割以上の目標を挙げ、アジア大会で達成させます。そしてこの延長上にオリンピックでのメダル獲得が見えてきます。

●河野裕光

(こうの・ひろみつ)



①S 44年6月16日②23才③H 2
年④2試合⑤186cm⑥85kg⑦
右⑧湧永製薬⑨島根県⑩中京大
学⑪のほほん

▽寸評Ⅱゴールキーパーとして経験が浅く、これからが本番である。課題は多いが、一つ一つクリアする事が今は大切。

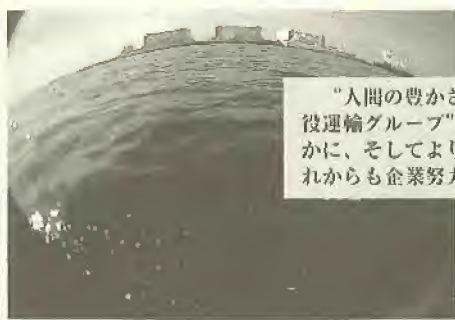
▼抱負Ⅱナショナルチームに入ってからには、世界のトップレベルの試合に多く出場したい。そうなるという事は、必然的に橋本さん、林さんを引きずり降ろして正ゴールキーパーの座を獲得しなければならぬ。来年、地元の広島で開かれるアジア大会に出場し、そしてそのゴールには私が立っているようにし、決勝が終った時、胸にかかっている金メダルを見ていただけるように頑張ります。

CP

●魚住和彦

(うおずみ・かずひこ)

①S 41年10月24日②26才③H 2
年⑤188cm⑥80kg⑦右⑧大崎
電気工業⑨熊本県⑩東海大学⑪
ウオ



“人間の豊かさを求めるヒューマナイザー・中村荷役運輸グループ”。物流の一翼をにない、生活空間を豊かに、そしてよりよい社会環境づくりをめざして、これからも企業努力を続けていきます。



中村荷役運輸株式会社

港湾運送事業・港湾荷役事業・倉庫荷役業・通関業
船舶代理店業・倉庫業・自動車運送取扱業・その他の関連業務
●本社：〒108 東京都港区芝浦2-3-39 TEL 03-3451-4161



おかげさまで

創業74年

NAKAMURA STEVEDORES & TRANSPORTATION CO., LTD.

▽寸評Ⅱスピードとパワーでは、全日本チームの中でもNo.1である。今後の課題は、スタミナの養成とコンビネーションプレー。

▼抱負Ⅱ全日本チームの最大目標は、アジアのチャンピオンになる事である。それには、韓国に勝つ事が絶対条件になる。韓国のスピードに対抗するには、やはりそれ以上のスピードをつけることである。はじめはミスが多いかもしれないが、慣れることによりミスが減った時、大きな力になるに違いない。スピードをつけるための一つとして基礎体力アップを挙げる。最初の合宿で行った体力テストの成績の30%アップを目標に取り組みます。

●梅基幸一

(つめもと・こういち)

①S42年2月25日②25才③H3年⑤182cm⑥76kg⑦右⑧本田技研工業⑨京都府⑩大谷高校・大阪体育大学⑪ウメ



▽寸評Ⅱ昨年1年で成長したプレイヤーである。体格的には決して大きくないが、運動量ではチームNo.1。ディフェンスの要として期待される。

▼抱負Ⅱ今年度もナショナルチームの選手として選ばれ、DFでのセンターバックとしての中心的役割と、OFでのポストのスペシャリストを目指して、継続こそ力なりをモットーとして日々努力していきたいと思っています。当面の目標は、今年の夏のアジア選手権での優勝です。それに向けての15%筋力アップと、基礎技術の習得、徹底を行い、他のアジアの国に負けない様頑張ります。

●末岡政広

(すえおか・まさひろ)

①S42年9月1日②25才③H4年⑤176cm⑥77kg⑦右⑧大同特殊鋼⑨長崎県⑩福岡大学⑪スエ



▽寸評Ⅱ日本を代表するゲームメーカーとして、成長してほしい。これからの課題は、プレッシャーのかかった時の創意工夫と、スピード強化。

▼抱負Ⅱ全日本選手の一員として1年間が過ぎ、この1年間でいろいろな事を学び、自分なりに成果があったと思う。技術面・精神面においても自信が持てる様になり、余裕を持ってプレーする事が出来る。

る。自分の場合は、センターとしての自分が死んで他人を生かす役割よりは、自分が生きるために、他人を上手に利用する方が好きです。これからはじまる大会に向けて、計画的にトレーニングを行い、結果を出しますので、応援の方よろしく願います。

●田中 茂

(たなか・しげる)

①S42年9月2日②25才③H元年⑤182cm⑥77kg⑦右⑧三陽商会⑨長崎県⑩筑波大学



▽寸評Ⅱ全日本チームの中でも中心的な選手として、昨年1年で成長した。これからは、全ての面で模範となるように期待している。

▼抱負Ⅱ新生全日本の中でも年令的にも経験でも上の方なので、チームでのリーダーシップをとり、チームをまとめていく存在になる。プレー面では私の場合、体格もあり大きい方ではないので、私の得意とするスピードプレー、フェイントプレーを磨いていく。DFにおいても、闘争心を全面に出したアグレッシブなプレーを目指す。熱いハンドボールを観せます。

●高木浩司

(たかぎ・こうじ)

①S42年9月17日②25才③H3年⑤181cm⑥70kg⑦左⑧中村荷役運輸⑨兵庫県⑩日本体育大学⑪アニ



▽寸評Ⅱサイドシュートのテクニク・スピードは素晴らしいものがある。今後、期待する一人。課題はアシストプレーと正確性・守備力。

▼抱負Ⅱ今年1年、ナショナルチームの一員として、とにかく自分に負けない様、常に自分に厳しくトレーニングに励む事がナショナルチームの勝利につながる近道だと思います。まだ公式国際試合の経験はありませんが、出場したら多彩なサイドシュートを決めます。広島で行われるアジア大会、オリンピックのアジア予選では絶対に金メダルを取り、本番のアトランタオリンピックではメダルが日本の手に渡る様、私を含めメンバー全員、力を合わせ、勝ちに行きます。

●渡辺 浩

(わたなべ・ひとし)



Châteaurois



召しませ自然。
シャトレのお菓子は山梨育ち。日本、の果実郷と極上の酪農地帯です。澄んだ空気と豊かな自然を、満載しています。そして、日本中をのびのび笑顔でみたそうとシャトレのフレッシュパワー、インドポル部ととも。21世紀に向けて、さらに大きく飛躍しようとしています。

株式会社シャトレゼ

山梨県東八代郡中道町下曾根3440-1 〒400-15
電話(0552)66-5151(大代) FAX(0552)66-5156

①S 42年10月20日②25才③H 4
年④14試合⑤183cm⑥73kg⑦
左⑧三陽商会⑨東京都⑩日本大
学⑪ナヘ

▽寸評Ⅱ全日本チームの元氣者として急成長した一人である。これから正確なプレーとアシストプレーに期待。努力・努力の姿は期待感一杯だ。



▽抱負Ⅱ昨年5月から全日本に入り、海外遠征も数回経験しました。中でもヨーロッパ勢に初めて勝った瞬間、なんとも言えない気持ちになりました。これが勝利の味なのかと思います。この気持ちをアジア大会、オリンピック予選と現実のものにして行きたいと思えます。日々、自分に負けぬ様、全力で努力して行きます。

●三輪澄高

(みわ・すみたか)



①S 43年1月31日②25才③H 4
年④0⑤188cm⑥84kg⑦右⑧

トヨタ自動車⑨愛知県⑩同志社大学⑪スミちゃん

▽寸評Ⅱ基礎体力も十分にあり、突進力を生かしたプレーはすばらしい。これからは他のプレーヤーを使ったコンビネーションが課題。

▽抱負Ⅱとにかくアジアのチャンピオンになるため何事も前向きに取り組み、自分のモットーである全力投球・全力疾走をする。今後の課題としては、積極的な反面、熱くなりすぎると視野が狭くなるので、余裕を持ち、状況の判断ができるようにする。技術面では右45度のポジションに定着できるようカットイン、遠めからのクイックシュートのスピードに磨きをかけ、最後まで絶対にあきらめないプレーをします。とにかく前進あるのみ。

●林 昌英

(はやし・まさひで)



①S 43年7月31日②24才③H 4
年④0⑤181cm⑥68kg⑦右⑧
日新製鋼⑨長崎県⑩国上館大学⑪スリム

▽寸評Ⅱ持ち前のハンドボールセンスは抜群のものがあ、日本のコントロールタワーとして活躍が

期待されている。基礎体力をつけること。

▽抱負Ⅱセンターというポジションをやっている中で、気配りのあるプレーを行い、他にもチームの選手がプレーしやすいようにゲームメイクをして行きたい。からだ小さいので、スピードとテクニクでカバーして、ポストとのコンビネーションを取りたい。魅力ある選手になりたい。

●田中雅彦

(たなか・まさひこ)

①S 43年9月21日②24才③H 3
年④5試合⑤185cm⑥80kg⑦
右⑧湧永製薬⑨福岡県⑩久工大
附・福岡大学⑪マサ



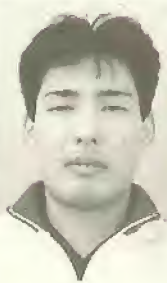
▽抱負Ⅱ自分のポジションがポストであるので、世界はもちろんチーム内でNo.1のポストマンになるように努力する事と、ディフェンスではチームの中心となり、人から信頼されるディフェンダーになりたいと思います。そのためには今後、数多く学ぶべき事、またそれを自分の本当の力にすることな

ど、課題はありますが、心を鬼にして夢であるアトランタオリンピック金メダル、またアジアNo.1に向け、突き進みます。まだまだ足りない努力を積み重ねるしかありません。

●源内利之

(げんない・としゆき)

①S 43年10月12日②24才③H 4
年④17試合⑤181cm⑥78kg⑦
右⑧日新製鋼⑨山口県⑩大分電
波・国士館大学⑪ケン



▽寸評Ⅱ昨年一年で、急成長した一人である。勝負強さが特長。こ

こ一番、頼りになる選手である。今後の課題は、アシストプレーに磨きをかけること。

▽抱負Ⅱ今自分は、全日本チームの一員として、アトランタオリンピックを目標に頑張っているが、その前にアジアでNo.1にならないと、オリンピックに出場する事が出来ない。そのために今、自分がやらなくては行けない事は、体力を向上させる事だ。その重点項目としてジャンプ力・握力・背筋力・投力を現状の15%アップを目標に実行し、成果を出し、必ずアジアNo.1になり、オリンピックの

スポーツマンのベストコンディションをお約束する、シャンピアホテル。



■料金(税込)
シングル.....9,270円
ダブル.....15,450円
ツイン.....15,450円



シャンピアホテル名古屋

〒460 名古屋市中区錦2-20-5 代表 ☎052(203)5858

●交通 地下鉄東山線伏見駅より東へ徒歩5分
地下鉄東山線栄駅より西へ徒歩8分 タクシーは名古屋駅より8分

■設備のご案内 ●ミーティングルーム ●全自動洗濯機・乾燥機設置 ●VHSビデオ設置

●シャンピアホテル 赤坂 ●シャンピアホテル 青山 ●シャンピアホテル 防府 ●姉妹ホテル KOLON HOTEL 韓国(キョンジュム) 東京事務所(03)3586-7571



■料金(税込)
シングル.....8,200円
ダブル.....14,100円
ツイン.....13,800円

シャンピアホテル大阪

〒530 大阪市北区南扇町6-23 代表 ☎06(312)5151

●交通 新幹線新大阪駅からタクシーで10分
大阪空港からタクシーで20分(阪神高速) 大阪駅から扇町まで徒歩12分

出場権をこの手に掴む事が出来る様に頑張ります。

●平松茂雄

(ひらまつ・しげお)

①S 43年10月27日②24才③H 4年④6試合⑤182cm⑥70kg⑦右⑧本田技研工業⑨愛知県⑩中京高校⑪ヒラ



▽寸評Ⅱ身体的には細身であるが、ゲームメーカーとして独特のものが、トリッキーなプレーに磨きをかけ、かつ正確性が課題となるだろう。

▼抱負Ⅱセンターというポジションは、チームの中心であり、またゲーム中コートの中での監督、コーチ的な役割をするポジションでもあると思いますので、日頃のトレーニングの中から、スタッフの言われる事をよく理解し、その時々や場面に合った指示の声、動きをし、スタッフそしてチームの全員に信頼されるようなセンターになります。そのためにはまだまだ勉強しなければならぬ事が沢山ありますが、一步一步やって行きたいと思います。そして、夢はオリンピックで優勝であり、目標はアジアNo.1です。

●中山剛

(なかやま・つよし)

①S 44年7月4日②23才③H 元年④60試合以上⑤191cm⑥85kg⑦右⑧湧永製薬⑨福岡県⑩福岡大学



▽寸評Ⅱ日本のエースと呼ばれる存在である。その体力・闘争心は、天下一品。課題はケガの完治と正確性。ハンドボールファンの期待に応えてほしい。

▼抱負Ⅱこれまで、ナショナルの大会へ数多く出場して来て、自分のシュートでも十分通用することは分かりました。しかし、まだ確率が悪く1試合の平均も5点を下回ると思います。やはり世界のトップチームを相手にしても7〜8点以上の得点を平均で取りたいものです。そのためには、まず足のケガについても考えていかないといけないし、自分の売り物のロングシュートをもっと磨き、国際試合の出場数や得点数の記録を塗り替えて行きたいと思っています。そして世界のトップシューターの中に名前を残せるプレーヤーを目指します。

●佐藤壮一郎

(さとう・そういちろう)

①S 44年8月7日②23才③H 4年④10試合⑤178cm⑥76kg⑦右⑧大同特殊鋼⑨東京都⑩日本体育大学⑪ソウ



▽寸評Ⅱ最近、徐々に力をつけてきている若手の元気者。チームに活力を与えるムードメーカーとして、逆境時のプレーに期待している。

▼抱負Ⅱ現状では、身体が全日本の中でも小さい方なので、技術的には理解出来ているプレーでも、パワーで押し切られる事が多数ある。それを克服するためには、日常の筋力トレーニングを行い、日本人は元より外国人をも引きずり回せるパワーを持つ。他には、ポストでボールを持ったら、何かやってくれるような仲間や観客に期待されるプレーヤーを目指す。私のセールスポイントとしては、元気なのでチームが逆境に立った時は、持ち前の明るさで流れを変えたい。

●高田浩志

(たかた・ひろし)

①S 45年2月10日②23才⑤180cm⑥76kg⑦右⑧湧永製薬⑨熊本県⑩東和大学



▽寸評Ⅱセンタープレーヤーとして勉強中であるが、個人的な能力は素晴らしい。今後は、人を動かすテクニクを身につけてほしい。

▼抱負Ⅱアジアのチャンピオンになり、オリンピックに出場するために、これから十分な基礎体力をつけ、今課題の一つであるスピード、これを自分のものにし、足でかせげる選手を目指したいと思っています。また、現在センターというポジションをやっていますが、ここに必要な指示・指摘・指導・気配りが出来るよう、普段の生活から意識し、精一杯努力し、一つでも多く国際試合に出場し、「勝つ」という事に常にこだわって行きたいと思っています。

●岩本真典

(いわもと・まさのり)

①S 45年9月28日②22才③H 2年⑤197cm⑥87kg⑦左⑧三陽商会⑨熊本県⑩早稲田大学

▽寸評Ⅱ若手の中でも期待される一番手の選手である。長身から投げおろすシュートは迫力満点。今

後は、基礎体力アップが非常に重要。



▼抱負Ⅱ全日本入りは大学1年の時だったが、それから3年間は学生のスケジュールと合わず全日本の活動はしていなかった。今春から日本リーグに所属し、全日本の活動が新たにスタートした。自分のプレーがどれだけ全日本で、また世界で通用するか楽しみでもあり、自信もある。まずは全日本選手という自覚を持ち、周りから頼りにされ、ハンドボール界の顔となる選手になりたい。そしてアジアNo.1を目指す。

●小沢勝利

(おざわ・かつとし)

①S 46年6月2日②21才③H 4年⑤6試合⑤180cm⑥70kg⑦左⑧日本体育大学⑨神奈川県⑩横浜商工高校

▽寸評Ⅱ大型ではないが、巧みなシュートテクニクは魅力ある。



今後の課題は、デيفュンス力と体力アップである。

▼抱負Ⅱ自分は去年からナショナルチームに選ばれ、今年も選ばれてとてもうれしいです。それは、ハンドボールをはじめから、ナショナルプレーヤーになることが夢だったからです。そして去年、極東大会に出場しましたがケガをしてしまい、活躍出来なかったのが、今年は大会に出場できたら、ケガをしないようにすること、試合で大活躍することが目標です。それから今までの夢がナショナルプレーヤーだったから、新たな夢はアトランタオリンピックメダルです。

●永山 強

(ながやま・つよし)

①S 46年9月9日②21才③H 5年④0⑤178cm⑥70kg⑦右⑧順天堂大学⑨埼玉県⑩浦和実業学園高校

▼寸評Ⅱ基礎体力は抜群によく、全日本チームでも上位クラスにラ



ンクされている。しっかりした技術を身につけ、さらに成長を期待している。

▼抱負Ⅱ今回、ナショナルチームに初参加ということで、期待と不安でいっぱいです。自分の最高のプレーをすることがチームに一番貢献できる事だと思うので、一生懸命頑張ります。また、やるからには、勝ちにこだわって、常に上を目指してやっています。

●富本 栄次

(とみもと・えいじ)

①S 46年10月18日②21才③H 4年④3試合⑤182cm⑥77kg⑦右⑧日本体育大学⑨神奈川県⑩日体荏原高校⑪トミ

▼寸評Ⅱスピードとテクニックを兼ね備えた期待のプレーヤー。デ



イフエンス面でも、運動量も多く、アクティブさが特長。課題は、確実性。

▼抱負Ⅱナショナルチーム入りして1年になりますが、まだまだとまどいところや未熟な点が多いですけれど、チームの役に立てるよう努力したいと思います。そして、全日本チームのアジア選手権優勝と、オリンピック出場、入賞と大きな目標と夢を実現出来るように全力で頑張りたいと思います。

●広政 宜孝

(ひろまさ・よしただか)

①S 48年7月6日②19才③H 5年④5試合⑤178cm⑥68kg⑦左⑧筑波大学⑨山口県⑩下松工業高校⑪ひろまちゃ

▼寸評Ⅱ全日本チームの最年少プ



レーヤー。シュート力、フエイント力、配給力とセンスのよいプレーが期待されている。何と言っても前向きな姿勢が非常によい。

▼抱負Ⅱ自分がナショナルプレーヤーに選ばれたのは、やる気もかっつもらえたからだと思っています。他の先輩方のプレーを見て、自分のものにしようと思います。自分は身長が低いので、今以上にスピード・パワーをアップしていかなければいけないと思います。相手は日本じやなく世界各国なので、今までの甘い考えではいけないと思います。とにかく自分は、ナショナルプレーヤーとして恥ずかしなく、胸を張って歩けるような選手になりたいです。

| | | |
|---------|---------------|----------|
| CP 藤井孝志 | ナショナル B 選手 | GK 荒木 進 |
| CP 森岡健二 | | GK 坪根敏宏 |
| CP 日原正和 | | GK 日原一幸 |
| CP 木浪達文 | | CP 福村正巳 |
| CP 市原剛次 | | CP 笠 哲也 |
| CP 満井健康 | | CP 小河原洋行 |
| CP 辻 昇一 | | CP 小野 優 |
| CP 笹浪重俊 | | |

大事にしたいのはボールを楽しむ才能です。

誰もが親しみ、楽しめるボールの前では、経験もエッジもテクニックも、みんながボーダレス。一番大切にしたいのは、スポーツが、ボールがあたえてくれる喜びをからだの底から楽しめる才能です。そこにボールがあることで生まれる夢、幸福、ドラマ…。それが私たちモルテンのテーマです。

ドラマに満ちたボール・シーンを支えるのは—モルテン。

株式会社 **molten**
東京本社 東京都墨田区横川5丁目5-7 〒130 03-3625-7581(代)
大阪・名古屋・福岡・広島・四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

全日本女子チームの遠征合宿同行記

団長 竹野 奉昭

思い出の国・チエコ

私は全日本女子チームに同行し、2年振りにチエコ及びスロバキアの二か国を訪問した。チエコスロバキアは、今年1月1日に二つの共和国に分離独立したばかりだが、日本チームにとっては忘れられない国である。

1961年の西ドイツで開催された第4回男子世界選手権の途中に、この国を訪れ強化合宿をした。そして1964年、チエコスロバキアで開催された第5回男子世界選手権・予選D組でノルウェーを18対14で破って日本が世界の檜舞台で初勝利をあげた地である。

私にとっても対ソ連戦の前半に右目上を裂傷(五針縫う)して救急車で病院に運ばれ、後半から出場して予選D組の得点主に選ばれた。

キアは数多くの思い出の国である。数十年前にわたり共同体として栄えたチエコスロバキアが、今後の多くの難問をかかえていることには間違いない。チエコとスロバキアの平和と繁栄を祈念したい。

バスで400km走る

3月18日12時30分、成田発のKL M八六二便でアムステルダムに向かった。現地時間16時45分(時差8時間)に到着。同地で一泊し、翌19日9時30分、アムステルダム発のKL M九四五便でブラハに向かった。同11時15分ブラハ空港に到着。ブラハ空港にはムラシユーさんはじめ連盟のスタッフが出迎えてくれた。昼食後、バスでブラハを離れ、400km離れたスロバキア共和国の首都ブラチスラバを経由し、ザルタナに着いた。ザルタナはドナウ川を境にハンガリー、オーストリアの国境にある小さな町である。

一昨年全日本チームが滞在したとか。体育館に宿泊施設があり、食事は三食とも近くのレストランを利用した。ハンドボールをする条件に恵まれたところである。19日から24日まで5泊6日の滞在で、

試合は6試合とハードなプログラムであり、成績は1勝5敗と振るわなかった。24日にバスで移動し、チエコ共和国のブラハから50km離れたニインブルグの町に移った。

このスポーツセンターは、環境に恵まれ、すべてのスポーツ競技ができる立派な施設があり、チエコスロバキアが世界に誇る幾多の名選手を生み出したところでもある。日本女子チームは4月5日まで滞在したが、私は社用のためチームと別れ、28日にブラハをたち、アムステルダムを経由して29日に帰国した。

意見統一が必要

今回の全日本女子チームの選手は、新旧半々のチームで18才から23才の若い層で編成されました。日本リーグの人替戦のあと日立栃木に集合し、3泊4日の短い合宿を終えてこの遠征に來ているので、私はチームワークを心配していました。

しかし、案ずるより生むが易し。の諺どおり、生活・練習は若さを全面に出した活気あふれるチームであった。半面、試合においては、チームをまとめるリーダー

不足を感じた。

若い選手たちはのみ込みも早いし、なかなかよい素質を持っている。ジュニアとシニアが混合でこのような合宿および遠征をすることで、お互いを理解し、日本女子全体のレベル・アップにつながり大変よいことである。磨きをかければ韓国・中国を追い抜くことは十分に可能である。

今年8月の女子アジア選手権、女子ジュニア世界選手権、そして来年10月の広島のアジア大会での活躍も期待したい。また全日本のチームは、各チームから選ばれた日本を代表する選手たちである。各チームにはそれぞれ監督・コーチがおり指導を受けてるわけ、技術指導の違いを感じているところがある。

これは私の意見であるが、国内の試合と国際試合とは試合の内容・技術が違ふと思う。選手強化については監督・コーチに一任するのではなく、全日本女子チームの進むべく技術・戦術等を強化・指導委員会で話し合い、意見を統一し、全日本チームを預かる監督・コーチに指導をお願いして行くことが重要ではないだろうか。

合宿中にサマータイム

27日夜、ムラシユー夫妻と通訳のクララ女史と一緒に食事し、I H F、E H F、今後のチエコ協会の問題等について語り合った。突然、ムラシユー夫人が「あす3月28日からサマータイムよ。時計を1時間進めてください」と言う。私は思わず「チエコだけですか?」「ノー、EC全部」すました表情。まったくヨーロッパ的である。監督や選手たちはサマータイムを知っているのだろうか。遅れてチームに合流する伊藤コーチは、アムステルダムに宿泊しているが、それを知っているだろうか。私は心配になってきた。

ムラシユーさんは「あす私が連絡するよ」と、のんびりしている。1時間早くなるということは、毎朝6時に起床し、食事前にランニングをしている緒方監督は、28日から午前5時起床となる。またヨーロッパの生活に慣れた選手たちも、リズムが狂ってしまったのではないかと多少気になりだした。サマータイムの言葉も知らない選手たちには、初体験であり、これまた尊い経験になったと思う。最後になりましたが、ムラシユーさんはじめチエコとスロバキア連盟の皆さんに、そしてこの遠征計画にご協力を頂いた水上前全日本女子コーチに厚くお礼を申し上げます。

女子ナショナル遠征報告

ジュニア選手の成長と

忍耐・自覚の大収穫

監督 緒方 嗣雄

今回の遠征は、大会出場及びその調整などが対象で無く、遠征合宿（トレーニングを主として）の試みである。ナショナルメンバーの中の故障者を除き、その代りとしてジュニアのメンバーを7名加え、オリンピック予選を目指したチーム編成である。国内スケジュールの関係で、チーム作りをする間もなく出発した。

現地のスケジュールは、前回、91年欧州遠征でお世話頂いたチェコ・元IHF理事のムラツ氏にお願いした。こちらの考え方にほぼ近い計画である。またGKトレーニングを（チェコ・ナショナルGKコーチ）シュート練習及び戦術指導をムラツ氏に依頼した。

3月19日、チェコ・プラハ入り。早速、ムラツ氏の出向えを受け、昼食後約6時間をかけて500キ

ロ、バスにてスロバキアのツラタナ（ハンガリー、オーストリアの近く。前回行った町）へ移動。最近まで一國でありながら、選挙によりチェコとスロバキアの二つの国となり、国境ができたためお互いのバスポートコントロールがあり、約1時間を費やす。宿舎は、体育館のすぐ横になっており、今回の目的通りの環境である。

20日は遠征第一戦。オーストリアのヒポ銀行と4か月振りの対戦（戦績は後記）。何もチームプレーができず、一方的なゲームであり、ただスピードプレーに感心させられた。

21日（日）は、ズラタナカップと称してヒポ銀行、イメジックス・トボリンク（チェコスロバキアの現在3位チーム）、地元ズラタナ（チェコスロバキアの二部リーグ所属、

日本の4チームでリーグ戦が組まれた。1日3試合とハードではあるが、メンバー全員でいろいろな事を試す事ができた。イメジックスには1点差負け、ヒポ銀行には防御を重点に置いて昨日より16点も失点を少なくする事ができた。

ズラタナ戦は快勝であった。この大会では所要所で選手を変え、全選手が体験することができた。また、この全日本チームが何をすれば良いかの方向づけをすることができた非常に参考になる大会であった。今大会第3位となり、ガラスカップは、大会を通じてコンスタントにゴールを守った川島選手にプレゼント（今回より大会の記念品はその試合で一番の活躍選手に渡す）された。

ムラツ氏の説明によると、国は二分したが、92年度のリーグ戦は

従来通り93年より各国で行なわれる。ノルウェーの世界選手権はチェコスロバキアの一国で出場する様である。

22日は、オーストラリア・ジュニアとの戦い。全日本はベテラン選手の頑張りでなんとか勝つ事ができたが、退場者続出で、ディフェンスの悪さを暴露した。

23日は、ブラチスラバにてスロバキア・ナショナルと対戦。最悪の出足であり、誰となく乗らない選抜チームの特徴そのものであり、ファイティングスピリットも欠けてしまった。

五日間のズラタナのスケジュールを消化し、プラハニーンブルグスポーツセンターに移動。前回は不評であった食事改善され、何事もなくトレーニングに励む事ができた。特にこれまでの6試合での欠点を修正した。速攻のパターン、ディフェンスの低い体勢からのアタックと方向付け、ノーマークシュートの確率を上げる事、この三点の修正に重点的に取り組んだ。また、チェコナショナルGKトレーニングと、ムラツ氏によるシュート練習、GKトレーニング及びボール展開の戦術についてのトレーニングは、単調な中味ではあったが選手も全力を出し切り、バテた様であった。

遠征の楽しみは、練習休みで、ショッピングである。午前中は近くの町のカッタグラス店に出かけ

駅前 モンブランホテル

〒450 名古屋市中村区名駅3-14-1
JR名古屋駅表玄関より徒歩2分
東洋ビル(東洋信託銀行、日本航空)隣

☎052-541-1121
FAX052-541-1140



伏見 モンブランホテル

〒460 名古屋市中区栄二丁目2番26号
地下鉄伏見5番出口(科学館方面出口)
徒歩2分(御園座東)

☎052-232-1121
FAX052-204-0256

だが、二人の店員に20名が殺到し、日本語と日本円でデンヤワンの買物であった。午後はブラハ市内へ行き、思い思いのグループで、先生、先輩、同僚にお土産を買い、休日を満喫した。

13日間のニンブルグ滞在期間中4試合の親善試合を行った。チエコナショナル2試合共に白熱した大接戦を演じ、2敗したが、力は五角であると思う。スラビアブラハ(リーグ現在3位)とはナショナルが抜けていた事もあるが優勝であった。スラビアブラハ男子ジュニア戦は、思い切り良くぶつかり、気迫のこもった試合運びがあり、練習の成果の現われた試合であった。

4月5日、再度バスにて移動。8時間程かかり、ドイツ、フランクフルトの北約50キロにあるマインツラーへ。4月6日はマインツラーチームとの試合が行われた。ここにもチエコ及びルーマニアからの助っ人がおり、前半は苦戦したが、後半に入り、速攻が良いタイミングで出る様になり勝利を手にした。4月7日、再度バスでオランダへ移動したが、5時間費した。ホテルで休養後、オランダリーグ1位のエビックシフトとの試合。ナショナルを5名、ハンガリーより3名の助っ人が揃っていた。特にサイドブレーヤーは世界選手権でも対戦したスピードのある選手で、警戒したにもかかわらず、サ

イドと速攻で一人に9得点を許す。前半は一方的に押され7対19、後半に入り自分たちのリズムを取り戻し、追い上げる事ができた。この試合で初めて日本人の応援団が来て、観客席から声援を送って頂いた。

日本人会デュセルドルフ支部の516家族の方々であった。心強い初めての味方の声援が、後半の追い上げに力添えしたと確信している。

4月8日、再度バスにて3時間ほどかかって最終試合地のオランダ東北部アレンヘム市へ。この地でオランダリーグ2位のゲルデラントチームと対戦。オランダ・ナショナルチーム監督のチームで、ジュニア選手5名がおり、テクニクは感じなかったがスピードのあるチームであった。全日本も最後の試合ということで気力を出し切り、終始リードを保って試合を進め、遠征最終戦を勝利する事が出来た。

遠征期間中、2日間の試合見学及び休養以外は1日2回のトレーニング、13試合(5勝8敗)、バス移動2500キロの旅を体験し、大きな収穫を得た。ジュニア選手の成長と自信を得た事、どの様な境遇にも打ち勝つてベストに近い状態で試合ができる忍耐、何ものにも勝るナショナル選手としての自覚が生れた確信を得たことが大きな収穫であった。

試合結果

| | | | | | |
|-------|----|----|--|----|--|
| 3月20日 | 日本 | 22 | $\begin{matrix} 10-19 \\ 12-20 \end{matrix}$ | 39 | ヒポバンク (オーストリア) |
| 21日 | 日本 | 25 | $\begin{matrix} 10-16 \\ 15-10 \end{matrix}$ | 26 | イメジック・ボトリング (チェコスロバキアリーグ現在3位) |
| | 日本 | 24 | $\begin{matrix} 11-12 \\ 13-7 \end{matrix}$ | 19 | ズラタナ (チェコスロバキア2部リーグ) |
| | 日本 | 12 | $\begin{matrix} 5-13 \\ 7-10 \end{matrix}$ | 23 | ヒポバンク *2日間に渡って行われた「ズラタナカップ」の結果は、1位ヒポバンク、2位ボトリング、3位日本、4位ズラタナだった。 |
| 22日 | 日本 | 29 | $\begin{matrix} 18-13 \\ 11-11 \end{matrix}$ | 24 | オーストリアジュニア |
| 23日 | 日本 | 14 | $\begin{matrix} 3-16 \\ 11-16 \end{matrix}$ | 32 | スロバキアナショナル |
| 26日 | 日本 | 25 | $\begin{matrix} 12-16 \\ 13-15 \end{matrix}$ | 31 | スラビアブラハ男子ジュニア |
| 29日 | 日本 | 25 | $\begin{matrix} 10-12 \\ 15-15 \end{matrix}$ | 27 | チエコナショナル |
| 30日 | 日本 | 21 | $\begin{matrix} 8-16 \\ 13-10 \end{matrix}$ | 26 | チエコナショナル |
| 4月1日 | 日本 | 24 | $\begin{matrix} 10-7 \\ 14-11 \end{matrix}$ | 18 | スラビアブラハ (チェコスロバキアリーグ現在3位) |
| 6日 | 日本 | 26 | $\begin{matrix} 10-10 \\ 16-12 \end{matrix}$ | 22 | マインツラー (ドイツリーグ5位) |
| 7日 | 日本 | 19 | $\begin{matrix} 7-19 \\ 12-9 \end{matrix}$ | 28 | エビックシノフス (オランダリーグ1位) |
| 8日 | 日本 | 26 | $\begin{matrix} 12-11 \\ 14-11 \end{matrix}$ | 22 | ゲルデラント (オランダリーグ2位) *遠征通算成績5勝8敗 |

今後の強化方針としては、この大きな収穫を基に今回の遠征メンバーを中心に、世界B大会参加者より2名、3名、ケガではずれていた3名を加えた構成で特に防御から速攻のスピードあるチームに、またフォア・ザ・チームを前面に押し出し、チーム作りをして行く所存です。

最後になりましたが、この遠征にご協力を頂きました方々に衷心より御礼申し上げます。今後共益々のナショナル活動に御理解、御協力を頂きますようお願い致します。

見・知・創・造



"With You"

発見の瞬間があり、心躍る人がある。
空想する時間があり、夢みる人がある。
創造する空間があり、歴史をつくる人がある。
また見ぬ世界と夢をカタチに、あなたと。

大同特殊鋼

本社 〒460 名古屋市中区錦1丁目11-18 (豊鉄ビル) TEL (052) 201-5111 (大代表)
東京本社 〒105 東京都港区西新橋1丁目7-13 (大同ビル) TEL (03) 3501-5261 (大代表)

女子ナショナル・ヨーロッパ遠征日記

3月18日(木) 伊佐野実保

私にとつてのヨーロッパ遠征が始まりました。日本を12時30分のフライトでヨーロッパへ向かい、11時間もの時間を機内で過ごしたにもかかわらず、到着した現地時間は午後4時半で、私にとつて3月18日はとても長い長い一日でした。

目的地に着き、周りを見渡せば外人で、出発前に外人は大きいと聞かされていて大きいと頭の中では分かっていた、実際に自分の目で見ると、思っていた以上に大きく感じました。こんな大きな人々を相手にすると思うと不安を感じ、本場ヨーロッパの人たちはどんなプレーをするのか興味をわいてきました。

街の中は高い建物が多く、道に沿ってずっと続いていて、空港からホテルまでの道は、よく映画に出て来そうな雰囲気窓にきづけていた。東京駅のモデルになったと言われる駅の前を通りま

したが、お城みたいな建物で、照明もたくさんついていてヨーロッパらしいモダンな駅でした。夕食はゆっくり時間をかけて楽しむというヨーロッパ独特の生活習慣を感じました。

これから長いヨーロッパ遠征なので、早くヨーロッパの雰囲気慣れ、一つでも自分のプラスになる多くの経験をしていきたいです。

3月19日(金) 松下由紀子

今日は、一日中かかったの大移動だった。飛行機を降りてからはただひたすらバスに乗っての移動だった。

途中で2回の検問があった。初めてだったから、思わず窓から見入ってしまった。気が付くと外はもう真っ暗で、今日は何だか食べてばかりだったなあと思ふから降りて上を見ると、ものすごくきれいな空だった。本当にたくさん星だった。自分のいる所ではめったに見る事ができない。まるでプラネタリウムにいるとは大げさだ

けど、それに近いぐらいの星空だった。こんなのを吸い込まれそうな空というのかなあと思ひながら星座を探してみたけれど、オリオン座ぐらいしか分からなかった。

出発前に日本でもオリオン座を見たけれど、今こどもで見ていると本当にやっぱり地球は一つだなんていうか、つながっているなあ、とても不思議な感じがした。

宿舎に着いてからは、短い時間だったけれど全員で汗を流した。明日からは、ゲームも始まる。チームを組んで間もないけれど、一人一人が持っている力を出せるように頑張っている。

3月20日(土) 荒川 裕子

3月20日、対ヒポバンク戦です。西洋人と戦うのは初めての私にとって、相手がどんなに大きいのか、どれぐらいのパワーがあるのか、頭の中で想像はしていたものの、実際ゲームをしてみるとスピード、パワー、高さすべてが想像以上で

した。チーム全員が170cmを優に超える長身の人ばかりで、まずその高さに圧倒されてしまいました。

日本では通用するパスも、簡単に投げたのではすぐにカットされてしまふし、ディフェンスでは押さえようと思つてつかみに行くと、逆に腕を巻かれてしまつて即警告、退場となつてしまいました。スタッフからの指示で相手を出て動きを止めて守るようになると言われたのですが、必ずしもそれがうまくいかず44失点という大量得点を相手に許してしまいました。簡単なパス・キャッチミスが多く、それをすべて相手に逆速攻されたのも大量失点の原因の一つだと思います。

自分自身、ポストでボールをもらつて「よしシュートだ」と思つても、フリースローになつてしまふケースが多くありました。

西洋人とゲームをする時は、日本人相手にゲームをしている自分の二倍も三倍ものパワーと早い判断力、スピードが必要なんだとつくづく感じました。試合は負けま

したが、西洋人とゲームができたことがすくうれしかったし、自分にとつてプラスとなりました。まだまだ合宿は始まつたばかりです。残りの試合で少しでも上手くなつて日本に帰れるように、一試合一試合全力で戦っていきたいと思ひます。

3月21日(日) 谷本 泉

ヒポバンク、地元のチームなど、4チームが集まつての大会が行われた。

一日で3ゲームをこなすハードスケジュールだったが、1ゲーム1ゲームに目的意識を持って臨んだ。一つは、相手は体格のよいプレーヤーなので、ディフェンスで当たり負けしない。また、相手以上にボールへの執念を持つ。攻撃では、練習してきたパターンの実践、そこからの応用。

一試合目は、自分たちの凡ミスからの相手の逆速攻をやられすぎていた。迷つたプレーからのミスが一つの原因であり、もっと積極

的にボールを持っている人もいない人も動いていき、最後のシュートにつなげていきたい。

二、三試合目は、ミスも少なくなり、自分たちのリズムがとりやすかった。

ディフェンスでよくやられていたのは、クロスからの強引なシュートや、クロスからのポスト。自分たちは、待つてディフェンスしていても、上からポストにタイミングを遅らせてパスさせることができないので、相手にプレッシャーを与えるようなディフェンスをしていかなければならない。

欧米人は、自分たちの守りに対して、つかまったら倒れて、警告退場を誘ってきた。3ゲームでかなりの警告、退場だった。

今日は4人で守るケースが2回もあった。6人でしっかり守れるためにも、フットワークをよくし、さらに攻撃の読みをトレーニングしていきたい。

3月22日(月) 川島ゆう子

朝、目覚めた瞬間、体中がいつもより痛いを感じた。海外遠征に出発して5日目。今日までに5試合を行って来ましたが、同じ人間ではありますが、体格、重量、高さ、パワー、試合での当たり方が違うので、体中皆アザだらけ。外人相手となると疲労も違ってきます。

午前中、自分たちでトレーニング。午後の試合に合わせて、その日その場でいろいろな対策を練っていく。昨日までの試合は速攻には走っていないけれど、そこへパスが出ていないため、得点に結びついていない。ノーマークシュートは確実に決める。これを徹底して練習を行った。

今日の相手はオーストリアのジュニアチーム。最初からとばしていけという指示どおり、積極的にシュートを狙っていて、ディフェンスでも粘って速攻までもつていき、得点に結びつけていった。練習してきたノーマークシュートを大切なところで、キーパーの一番手足の出しやすいところへ打っていたので、もつと全員が意識して直していかなくてはいいけない。若いメンバーが出た時にディフェンスで弱いところが出たり、粘りきれていなかった。

最後に、今日は大切なミスをおかしてしまい、全員の気のゆるみがあった。個々がもつとしっかりしていかななくてはいいけない。

3月23日(火) 松本 恵美

遠征に来て5日目が過ぎた。今日はスロバキアと試合をし、32-14だった。前半、自分たちのベイスがつかめず、キャッチミス、パスミスと、ミスの連続になってしまい、速攻で持って行かれ、日本

はなかなかシュートまで持って行くことが出来ず、点にまで結ばなかった。ミスをしてしまったのに戻りが遅く、ボールを見てしまうケースが多かった。午前中に戻りの練習をしたのだが、やっぱりボールをいつまでも見てしまう事があったので、それが試合にも出たのだと思った。

後半は、少しずつペースがつかめて来て、速攻で点が取れるようになった。しかし、DF面で退場者が多く、5人で守ったり4人で守る事がこの試合の中でたくさんあった。腰が高過ぎてしまつて、手で守りに行っているので警告になつてしまつていふと思った。DFをもつと強化して行つた方がいいと思った。

今日の試合でアップする時から皆元気がなかったもので、アップの時から試合は始まつているのだから盛り上げて試合に臨めるようにして行かなくてはいいけないと思つた。

試合の後で竹野さんに、自分たちは闘争心と集中力に欠けていると言われ、私もそうだと思つた。これから先も試合があるので、今日見たいな試合をやらないうように臨んで行こうと思つた。

3月24日(水) 西村 聖子

ズラタナでの一週間の合宿を終え、今日はニインブルクへと移動

しました。そこでは見渡す限り緑、木、土。これだけの広大な自然があれば、ゴルフ場を作ろうと思えば、いくつ作れるだろうか。と、パスの窓越しに見えた風景から、日本人の私はそんなことを考えてしまいました。

これまで、ヨーロッパの生活習慣には慣れたものの、ハンドボールに関しては、6試合を終えた今でも、まだまだ不十分です。ヨーロッパのプレイヤーのスピード、パワー、テクニク、どれをとつても目を見張るものばかりで、そんなプレイヤーに対して、体の小さい日本人が闘うためには様々な工夫が必要です。

しかし、今までの試合では、自分たちの出来ることを徹底してする前にミスを連続し、大量失点をし、ゲームの主導権をはやくから相手に持たれたままで苦しいゲーム展開をすることが多かったように思います。

今日の練習から、これまでの試合の反省をふまえてのこれからやり直しということで、フットワークを中心としたディフェンス練習をしました。

今回の遠征の試合では、勝敗にこだわらず持つことはもちろん、内容を重視するということなので、自分たちが今出来ることは何か、何が欠けているのかを把握して、ヨーロッパを相手にする時どうするべきかを、残された遠征期間の

中で、頭で理解して、体で覚えていきたいと思います。

3月25日(木) 山川 由加

今日は、ヨーロッパに来て初めての休みでした。午前中はフリーで、ゆっくりとくつろぎ、今までの練習の疲れをとりました。

午後は、4月1日に対戦が予定されているスラビアアハが出ているリーグ戦を観戦しました。そのゲーム前に街を歩く時間がありました。その街は、なにもかも大きく見え、ヨーロッパだと感じました。

もつと時間をかけて、ゆっくりヨーロッパの街をみたかったです。電車がバスかわからない乗り物にはびっくりしました。一度は乗ってみたいです。

試合ではいろんなことを感じました。今日みたところは、今度戦うことになっていふので特によくみました。感想としては、あまり強くないと思いました。互格のスピード同士のチームが戦つていたので、そう見えたかもしれません。ゲームは戦つてみないとわかりませんが、試合の時は、今日の試合をみたことを生かしていきたいと思います。今日のチームもミスがたくさんありました。やっぱり一つのミスは大きいと思いました。一つ一つ大切にやっていくことを忘れてはいけません。

明日は五の男子とゲームです。

とにかくミスがなくして、アップから元気に声を出していきたいです。とくに若い自分たちがやるべきことは、チームを盛り上げることだと思っので、常にそう心掛けます。

3月26日(金) 古澤さとこ

今日、午前の練習が始まる前に監督から「ゲームをしに来てるんじゃないくて、練習中心で、その成果をゲームで使える様にきてるんだから」と言われました。午後からはスロバキア男子のジュニアとゲームすることになったので、午前中の練習は、DF中心でした。ゲームは5時30分からで、アップは4時からでした。パス、シュート、6対6で、どうやったら守れるのがゲームのポイントでした。男子は身長、力、スピードがあり、勢いをつかせたらおしまい。だから、とにかく早め早めにつぶす事でした。DFは、すごく良く守っていたと思います。攻撃では、大きい壁の間から、ロング、ステップシュートなどが決まりました。

このゲームの残り10分間ぐらい出させていたのですが、入ってすぐに逆速攻があり、もう一発勝負しかない状態だったので思いつきりいたら、右手にあたっで、止めてしまいました。自分で

も「あたった!」としか考えられませんでした。その後も何本かシュートはありましたが、すごいスピードボールが体をよぎっていくと思えるようでした。

ゲームは25対31と負けましたが、よくDFで守れていたし、男子との試合ではできたのだから、女子と戦う時も同じDFができるように、との監督の言葉でした。この遠征で、いろんな相手とゲームをするのだから、一つ一つ上手になれるように、がんばりたいと思います。

3月27日(土) 田中美音子

今回、初めてナショナルの遠征に参加して、ジュニアの時とは違った緊張の中の練習の毎日です。それに、フエント、シュート、スピード、DFも、今まで通りにやっていたら全然通用しないことがよくわかりました。

この遠征にナショナルのメンバーとして連れてきてもらって、とてもよい勉強になってると思います。ゲームにも出させてもらって、日本ではなく外国の人との初めてのゲームで、外国には日本人の中にはいないスピード、技術などを持っている人がたくさんいることを知りました。そういう人一步でも近づけるように、せっかくこの合宿に連れてきてもらっているのだから、しっかりとがんばって

て身につけていきたいです。

それと今回の遠征で、今日も外人相手を想定した徹底したDFのフットワーク練習をしました。今やっているフットワークはすぐに身につくわけではないですが、この遠征中ずっと続けて常にそのフットワークが生かせるようにして、最後の試合でどれだけ身についたかを試してみたいです。

3月28日(日) 貴田 直子

今日でチエコに来て5日目になるが、皆かなり疲れもたまっている様だ。そんな時は、集中力が欠けてしまう事が多いため、一人一人が課題を作って、それに取組んでいく事にした。

チームとしては、課題の一つであるDFに重点を置いて練習している。フットワークも速さだけではなく、DFで腰が高くならない様にしっかりと膝を曲げ、腰を落とした姿勢を保つ様に徹底した。まだ何日間もしていないが、4対4、6対6のDF練習では、少しずつ成果が出ている様だ。こういう事は、今回の遠征だけではなく、しっかりと継続していきたいと思う。これまでのゲームの中でも、DFが出来ていない時は、自分たちのベースがつかめず、攻撃でもミスが続く事が多い。速攻もつなぎが悪くなるから、セットオフエンスしかなくなり、そこでもパターン

ンをくずされ、逆速攻で押されるという悪循環。

やはり、前半の出だしで、どれだけDFで頑張れるかでゲームを自分たちのベースで出来るかが決まると思う。

これからも、また何試合かするが、今までのミスは繰り返さずに、また、成功したパターン、コンビなどは、徹底して使っていく様にし、チームとしても、個人としても、この遠征で何かを必ずつかんでいこうと思う。

3月29日(月) 広瀬喜代香

今日のチエコスロバキア戦は、前回2点差で勝っているチームとあって、お互い国をあげた大切な試合でした。

練習の時、何本も合わせたプレーが決まったり、速攻も全員でシュートまで持っていきシュート確率の高い試合だったと思います。

良いプレーは、一本で終わらせるのではなく何本も使っていくべきだと思いました。今日の試合はフォーメーションプレーがきれいに決まっていました。

DF面においても、高い位置で守れていました。今回も退場者が出てしまいました。日本では考えられないようなプレーで取られていました。ここが日本と外国の違いだと感じました。逆に日本もあのように何もしていないDFに

対して、すぐに倒れ、相手を退場にまでもっていくようなプレーを

外国の大きなDFに對してもつていくと、攻める範囲も広くなると

思います。新メンバーになって、まだあまり合わせていないチームでしたが、一つになっていたと思えました。自分も今日の試合を見ながらたくさん勉強することができ、人一倍努力して、このような試合に早く出来るように頑張ります。

今日は、試合前にチエコグラスの工場見学をしました。吹くだけでガラスが広がり、いろんな形になります。とてもきれいでした。

3月30日(火) 比嘉 晴美

チエコへ来て11日目。皆チエコでの生活もだいぶ慣れてきたみたいで、食べ物や飲み物も各自工夫して楽しんでます。

特にこのスポーツセンターは、周りが自然でいい。ペラングでヨーグルトを冷やしていたら小鳥に食べられた子がいたり、それをきっかけに小鳥のエサづけをしながらか観察している子もいます。

今回の遠征の目的は、試合ではなく合宿なので、毎日ハードな練習をしながら試合をしていく訳です。試合の方では、このスポーツセンターへ来てからは3試合をこな

し、2試合はチエコスロバキアナ

シヨナルと行い、2つ共黒星。しかし新生ナシヨナルにしては、すごい試合をしていると思えます。今日の試合のスコアは、26-21と5点差をつけられて負けましたが、前半の8点差を後半3点差まで詰め寄るところまで力をつけました。

まだまだ前半の立ち上がりの弱さ、ミスの多さなど、チームの若さのための弱いところが出てきますが、練習で悪いところをなおし、コンビを合わせ良いところを伸ばしながら、この遠征中に一つでも成果を上げられる様に頑張っていきたいと思っています。

3月31日(水) 山尾 陽子

チエコのオリンピックセンターに24日に来てから8日が過ぎ、こちらでの生活にもだんだん慣れてきました。つい最近まで雪が降っていて寒い日が続いていましたが、ようやく春らしい暖かさが感じられるようになってきました。食事はパンとバターとハムが多く、三食の中では昼食のメニューが豊富で、日本との違いを感じました。今日は特別に、ムラツさんに技術的な部分を教えてもらいました。ムラツさんは、技術面を専門にされていて、ソウルオリンピックの強化チームを教えていたそうです。初めにバスワークの練習をしました。簡単な練習だったのですが、

ボールに対してとても集中力を必要としました。次にシュート練習に入り、クロス、フエイント等応用練習をしました。特にシュートについてムラツさんは、早く打つことを求められました。日本人は外人よりも比較的身長が低いため、相手が驚くようなシュートを打ちなさいと言われ、ジャンピングキヤッチからのロングシュートを練習しました。

何試合かしてきましたが、どのチームも高さとパワーがありました。世界の壁は厚いけれど、日本独特のスピードとコンビプレー等を練習すれば、世界に通用すると思います。今回、ムラツさんに教えていただいた事を自分たちのプレーの幅を広げるために役立てたいと思います。

4月1日(木) 上出恵美子

今日は、スラビアブラハというチームとの試合だった。このスラビアブラハというチームの試合を一度観戦していたから、試合もやりやすかったと思った。観戦した時の感想と言えば、「こんなんでいいのか」と思っただけの迫力がないというか、観客だけが異様に盛り上がっていた感じだった。

いざ試合が始まると、すごく大きい選手たちばかりだった。身長、体格すべて大きい。だからパワー

も違うと思った。いくら相手がそんな選手ばかりだからといって、自分を弱いと思うのは良くないから、相手がどの誰でも思い切った試合に臨んだ自分だった。練習したことを試合でやる。失敗してもやってみて、それが成功すれば大きな自信になっていくのだと思った。

私はこの遠征に参加できて、本当にうれしく思っている。初めは不安でしかなかったが、これはすごくいい体験であり、自分自身が成長したような気がした。このようなチャンスは、生かすべきものであると思った。

4月2日(金) 西口 貴子

今日はお休み。待ちに待ったジョッピングの一日となりました。朝、いつもどおり7時45分から散歩、体操を終え、8時から朝食パンを食べながら、交わす会話も今日は休みとあつてか、いつもよりははずんで見えました。

9時に出発。午前中の行き先は、こちらで有名なカットグラスのお店。日本で手に入れると大変高価な物だそうで、グラスや花瓶、灰皿など、とてもきれいなカットのほどこされた作品が、所狭しと並んでいました。チームメイトのおみやげや家族、恩師へなどなど、買う目的も様々で、近い将来(?)を見込んで自分という人も。一

度に20人くらいのお客さんの応対に一番苦労したのが店員さんだったと思います。次から次へと日本語で話しかけられ、バニック状態にあったに違いありません。おかげでスムーズに買い物ができず、集合時間に遅れてしまう結果に。とても、あわただしい午前中となりました。

午後はブラハの街でのジョッピングでした。こちらでの買い物は2度目とあつて、2時間半程のフリータイムをみんな有意義にすごしました。

練習・ゲームの一日と違って、楽しい一日が過ぎるのは早いもので、あつと言う間の一日でしたが、遠征も残り8日。がんばって、無事日本へ帰りたいと思います。

4月3日(土) 田中 里美

ブラハのスポーツセンターに来て10日が過ぎました。こちらの生活にも随分慣れ、体調を悪くする人もなく、毎日が充実してきました。

最近、日中温かく過ごしやすい一日が続いているので、ベランダに置いたヨーグルトを小鳥が食べにやってきました。日本はもう桜が満開だと聞きました。私たちが日本に帰る日まで、まだ散らばらずに残っていればなあと思う今日この頃です。

ブラハでの生活も残り2日となった朝、監督が「今日と明日の2

日間、気合いを入れていくぞ。」と言われ、自分たちの練習に対しての取り組み姿勢を考えなければならぬと思います。いざ練習に入ってみると、パス、キヤッチなど消極的なミスが多く目立ち、基本的な事を徹底してきませんでした。ナショナルチームだからこそ、精神面でカバールし、ミスが続けないようにして切り換えていかなければならないと思います。ノーマークシュート一つにしても、全部同じタイミングで打つのではなく、キーパーの逆をついたコースを体で覚えていきたいと思っています。練習の最後の段階で盛り上げの音が少なくなりそうです。つらい時こそ全員で声を出し、一日の練習をよい型で終らせたいと思います。そして、「盛り上げる」と言う事は「自分から声を出す」と言う事だと思っています。

残り三戦、今までやってきた事を全部出せる様、全員で力を合わせて頑張りたいと思います。

4月4日(日) 貴田 直子

この遠征も中盤にさしかかり、チエコでの合宿も最終日となった。初めは緊張の中で、練習で、皆遠慮しがちだったが、日が経つにつれ、良い意味でも悪い意味でも慣れてきて、今日は練習最終日という事もあって、その悪い面が出ない様に全員が緊張感を持って練

習に取り組んだ。

今回の遠征のメンバーの中では、私は年齢的にも上になり、自分自身が要求される事をしっかりとやらなければならないし、自分自身の事だけではなく、チーム全体の事も考える必要があった。

私は攻撃の要であるフロウターで、しかもエースポジションという大きな役割を任されている。しかし、まだまだその役割を果たし切れる時が少なく、戸惑う事が幾度あった。これまではシュート確率が低いし、徹底出来ていなかった。

このチェコでの合宿では、どんなプレーが通用するか、自分から積極的に取り組んだ。

この後、ドイツ、オランダへと向かい、練習ゲームが行われるが、どれだけ自分のやってきた事が通用するか試してみたい。

今回の遠征も残りわずかとなり、自分も含めチームにとって重要なものとなると思うし、悔いのない様にしていきたい。

4月5日(月) 谷本 泉

今日はチェコからドイツ入りの日となり、朝からスカイキースの荷作りなどで慌ただしいスタートになった。12日間のチェコでの生活は、トレーニング中心でその成果を試すという形でゲームが組まれた。まだ100%の出来ではな

いが、速攻、攻撃、守備の面で、この新しいチームの土台となる型は出来上がってきた。あとは徹底してやることと、成功率を高くすることだと思う。

ここまでで、いろんな試合を体験してきた。立ち上がりの悪さで前半3対16という試合や、チェコナショナルと2点差で離れそうになっても、詰め寄っていく精神的な強さのみられた試合。一つ一つの試合の良かったところ、悪かった所を忘れないでいたい。次につなげていくためにも……。

今回のメンバーの半分がジュニアだったが、この遠征で全日本のことを少しでもつかめたかどうかヨーロッパの人のプレーを含め、審判のジャッジの違いも感じたと思う。

ドイツの目的地までの道のりはとても長くて、11時間もかかった車内から外を眺めると、チェコの風景とはやはり違った。建物ももっとかりしていて、色彩的にもきれいで、チェコとは違う豊かさを感じた。

4月6日(火) 松本 恵美

合宿も残り5日となり、試合も3試合だけになりました。移動して試合なので、練習という練習がもう出来ません。今日も午前中、5時間という長い時間移動をし、午後、試合をやりました。相手は、

マインツラーチームと戦い、26対22で勝ち試合でした。

前半からスピードで行き、点を取っていききました。DFも守るのですが、あと一步の所でやられてしまいました。しかし、点差はあまりあかず、1点1点追い上げ、逆に自分たちが差をつけていききました。

後半は、前半とまた違い、DFも守れ、守って速攻の形が何本も決まりました。セットに入っても今まで練習して来た事が出来たと思います。

DFの時に、守っているのだから、最後まで守っていけるようにしていききたいと思いました。

残り2試合、今まで練習で得た事を全部だせるよう臨んで行きたいと思いました。

相手は、自分たちより大きい選手なので、守りにしても攻めにしても、しっかりと行こうと思っています。2試合とも勝負気でいきたいです。

4月7日(水) 西口 貴子

今日は、ドイツからオランダへ移動の日でした。朝、いつもどおりに体操した後、朝食。9時にホテルを出て、約4時間程で到着。ホテルは『ゴールデン・チューリップ』といって、いかにもオランダらしい名のホテルでした。部屋に入ると、とてもかわいく、テレ

ビ、電話、冷蔵庫等々、何でも備わっていて、一日しか宿泊できないのが残念でしようがなく思えてなりませんでした。

その後、昼食をとってゲームに出発までの時間を、フリーで過ごしました。

ゲームは7時半からでした。デュッセルドルフに住んでいたらやる日本人クラブの方が応援して下さる中、ゲームは行われ、前半7対19とリードを奪われて大差で終えました。相手のE.V.I.C.というチームにはハンガリーの選手も入っていて、スピード、パワー、高さが有り、特に右サイドのハンガリーの選手には前半だけで9点も取られてしまいました。

後半は点を気にせず、ぶつかっていったのが良かったのか、12-9とリードしてゲームを終えました。

しかし、前半の点差が大きすぎて、トータルでは19対28の9点差で負けてしまう事に……。

今日のゲームは元気が持続できず、自分たちのペースでできなかったのが、明日の残る1試合では3週間の合宿の成果が全て出される悔いの残らないゲームにしたいと思いました。

4月8日(木) 上出恵美子

今朝、少し早く起きて仲間と一緒に散歩をした。まず馬を見に行こうと、カメラを片手に馬の方へ

向かった。馬にえさをあげたり、馬と共に写真を撮った。次に別な馬の所を散歩をしに行った。一頭の馬が走っていた。向こうの方へ走っていった。こっちに戻って来る時にどこをどう走って来るのかと思って見ていたら、突然、私たちの方へ突進してきた、すごくびっくりした。日本で、馬をこんな真近で見れるのは動物園ぐらいだから、自然な馬を触った感じだった。

ところで、この欧州遠征は今日の試合が最終だった。今日対戦したチームはゲルデラント(リーグ2位)だった。結果は、勝ったけど、このチームも大きい選手がいいた。大きい選手にスピードをつけさせると、こっちが不利になる。守りではこつちからも攻撃的な守りをしたり、相手にスピードをつけさせないようにけんせいするなど、いろいろと考えなければならぬ。相手の特徴などもすぐに見つけたりすることも必要になるでしょう。

この遠征で練習・試合で学んだことを、自分のチームへ帰っても本当に無駄にしてほしくないと思う。絶対自分プラスになるものばかりだから、この遠征で学んだ事を忘れないでほしい。



'93男子世界選手権大会視察報告

指導委員会

笹倉清則／村松 誠

【攻撃】

1、個人技術

1993年3月9日から20日間、スウェーデンの4都市を中心として第13回男子ハンドボール世界選手権大会が開催された。今回は、私(笹倉清則)と村松誠氏が指導委員会から派遣され、大会の視察にあたった。当初の予定では、予選リーグはグループD(ロシア、韓国、フランス、ドイツ)という話題のチームの集中したグループに絞って視察し、準決勝リーグはA、Bグループの試合に絞って、最後にストックホルムで決勝まで観戦することになっていた。しかし、大会前にユーゴの参加辞退があり急遽、Dグループからフランスが外れ、そこにデンマークが入ることになった。この組み合わせの変更が最終的に今大会の順位に大きく影響することとなった。また、今大会ではバルセロナで我々を驚かせたフランスの勢い、そして変則的な防御の勢いと今回の組み合わせの変更という一つの「運」といったものをフランスに感じざるを得なかった。

技術・戦術的には以下に記述するような特徴が観られた。

た。

ロングシュート……今大会の最優秀選手に選ばれたスウェーデン(SMAGUNAS ANDERSSON(180cm))、バルセロナの決勝でも活躍したロシアのTALANT DUISHEBAEV(188cm)らに代表されるように、2m選手が多くみられる中で比較的小柄な選手が、そのシュートテクニクで形態的なハンデを十分に補い、そしてそれ以上にトッププレイヤーとして認められる活躍をした。彼らのシュートテクニクは防御の隙をついてアンダーハンドからのシュート、位置を変えながらのランニングシュートでのミドル、両足フエインのタイミングから防御の肩口や頭の上からのステップシュート、空中で変化しながらのシュートと多彩である。

防御戦術が向上し、簡単にはシュートチャンスを作り出せなくなってきた今日、彼らのような動きの質、並びにシュートテクニクを持ったロングシューターが今後ますます必要とされるように思われる。

2、戦術

戦術面では、特に大きな変化は観られなかった。これまでの傾向

同様に色々なポジションからの走り込みを利用した2-4への移行攻撃と、ロングシューターのクロスによる位置の変化からの攻撃、また韓国のようなポジション攻撃によるものに分類できる。

全体的に、どのチームも消極的で低い位置で防御するために、攻撃の主はロングもしくはミドルと限定され、ポストプレーは十分に生かされない。そのためにセンターもしくは45度からの少しのズレを生かして、サイドのスピードを利用し、シュートへ結び付ける攻撃が多く観られた。コート中央からのわずかなズレを、最大限に生かそうとするものである。従って、サイドの位置取りはコーナー近くとなり、そこからボールをもらう際にシュート角度を広げるように走り込むプレーが大変多かった。また、その際のパスはほとんどと言つていいほどバウンドパスであった。

これは、ソウルオリンピックでスウェーデンがソ連の変則防御に對して成功したものであり、既に一般化したものと思われる。また、このバウンドパスは、45度からサイドだけではなくセンターからサイド、極端なときには防御の隙を

利用し、逆の45度からサイドへのパスの際にも観られた。

3、速攻

速攻は既に全てのチームの一つの戦術として考えられ、トレーニングされてきている。しかし、やはり今回の上位チームと下位チームでは、スピード、パスワーク等にまだ差があると思われる。この差が順位にも影響しているように思われる。

4、その他

ゴールキーパーをワールドプレイヤーと交代し、攻撃に7名のフィールドプレイヤーを入れ攻撃する場面が幾度か観られた。試合終了間際、そのような場面が起こりそうになったら、交代選手はベンチでユニフォームの上にゼッケンをつけて待機する場面もあった。しかし、直後それにより得点となった場面は、少なくとも観戦した試合の中では残念ながら観られなかった。今年より、国内ルールに採用される。

【防御】

防御は、前回の大会からの傾向同様に、どのチームもフリースローラインからエリアラインの間を守るといった傾向にあった。0:6防御が主流であり、いくつかのチームは1:5防御形態をとっていた。その中で、韓国の高い1:2:3防御や、エジプトの自軍コー

〔次頁へ続く〕

日韓社会人女子ハンドボール交流大会 関東地区で5試合が行われる

第21回を迎える日韓交流は、去る3月24日より4月3日まで11日間、わたり関東地区に於いて行い、日立栃木・JUKI・日本ビクター・大崎電気・シャトレレーゼがそれぞれ対戦した。試合は韓国選抜チームの個人技とパワフルなプレーに対して、日本チームがどこまで実力を発揮出来るか注目された。結果は韓国選抜チームの5勝全勝であったが、日立が3点差、シャトレレーゼが2点差と善戦した。

■3月25日/日立栃木体育館

韓 国 33
19 14
18 12
30日立栃木

試合開始早々、日立栃木は蔦のシュートで先制したが、韓国は朴美貞を中心とするスピードイデオニール展開と出足の良い速攻で、10分には逆に4点リードする。日立も飯塚のパワーあふれるロングシュートなどで応戦、24分には同点に追いついたが、日立にミスが出て、韓国が2点リードで前半を折り返した。後半、日立は陳が速攻から得点し同点とし、一進一退の攻防が続く大接戦となり会場をわかせた。残り5分、韓国は粘りをみせ連続得点し初戦を白星で飾った。

■3月27日/JUKI体育館

韓 国 37
13 10
24 7
17JUKI

試合は韓国のペースで始まり、10分には5対1と差がついた。しかし、JUKIは韓国のミスからの速攻で山口が得点したのをキッカケに、5分間で4得点するなどしてゲームを盛りあげた。韓国も着々と点を入れるが、JUKIは永尾、林実がロングシュートを決め前半を10対13で善戦する。後半はJUKIが調子をくずし、韓国に7連続得点を許した。韓国は速攻・ポストプレー・ロングシュートと多彩な展開で点差をひろげた。JUKIは後半、チーム全体が若さと経験不足から立ち直れず、前半の健闘が惜しまれるゲームであった。

■3月29日/岩井市総合体育館

韓 国 41
22 8
19 9
17日 本

岩井市の協力により、岩井市教育委員長はじめ中学生・高校生・日本ビクター社員など、多くの観客が観客席をいっぱいにした中で、試合が行われた。

韓国は若手主体のチーム構成であったが、個人プレーの正確さと、技術の能力に優れ、選抜チームを組んで3日間だけの練習しかして

いないチームとは思えない動きであった。日本ビクターは、ロングシュートやコンビプレーで得点をあげるがミスが多く、そのミスを相手の得点に結びつけられてしまった。韓国は個人プレーや2人または3人のコンビプレーで簡単に得点を取り、大差のゲームになった。日本ビクターの選手は、この試合を通して韓国選手から正確なプレー、スピード、個人能力など多くを肌で感じ学んだことだろう。今後のご活躍を期待したい。

■3月31日/大崎電気体育館

韓 国 38
18 15
20 13
28大崎電気

韓国チームを迎え、体育館は小学生・中学生・高校生や応援の大崎電気社員でコート周囲を埋めつくした。試合はどちらも点を取れば取り返す、という白熱した展開で始まり、会場の観客を大歓声で沸かせた。韓国の選手は、ジャンプ、フェイント、フットワーク等の基本ができており、そのうえハンドボールを知っているのだから強いチームを作っているのだらう。試合は28対38であったが、この交流試合で肌で感じ、刺激を受け、大変良い勉強になったことを、今後の試合に生かし大きく前進することだろう。

■4月2日/シャトレレーゼ体育館

韓 国 29
19 15
10 12
27シャトレレーゼ

前半の立上り7分では7対2でシャトレレーゼが5点リードしたが、朴美貞を中心とした韓国の攻撃に着々と点を重ねられ、18分には11対11の同点となった。その後は一進一退の攻防が続いたが、残り10分から韓国は連続6点し、19対15と4点リードで前半を終了した。

後半に入り、シャトレレーゼは小松の強気なロングシュートで喰いついていったが、李尚恩の豪快なロングシュートや、姜賢周の鋭いプレーで点差を広げた。後半26分で29対23の6点差となったが、シャトレレーゼは最後の最後まで粘りに粘った。小松、山岸のロングシュートが続々と相手ゴールに突きささり、連続4得点をあげ今一歩逆転に及ばなかったがシャトレレーゼがよく善戦した試合であった。

今回の対戦成績は韓国の5戦全勝で終わったが、日立栃木・シャトレレーゼが大健闘し、日本ビクターは岩井市の協力があり、各会場には多数の観客（ハンドボールファン）が観戦に来て大いに盛りあがった大会になった。

末文になりましたが今回の日韓交流大会に御協力・御支援・御指導いただいた各関係の方々に心から厚く御礼申し上げます。

（前頁より続く）

トでのマンツーマン防衛などが観られたが、これは形態的に劣っているチームにのみ観られ、全体的には、エリアライン付近を防御しポストでプレーさせないような防御に対する考え方が観られた。当然、どのチームも一つの防御形態だけでなく変化はもっており、状況に応じて使い分けていた。

また、数的優位な状況（6：5）の時の相手エースへのマンツーマン防衛は、ほとんどのチームに観られた。この数的優位な状況での防御として、大変興味をもたれたのはチェコの防御で、これは1：2：3防御隊形で、ボールのないほうのサイドをノーマークにして、そこへボールがいかにないように、プレス・デフエンスをするものである。

【まとめ】

全体的に観て、戦術的には攻撃よりも防御のほうが勝っていたという印象があった。しかし、攻撃での個人の技術と速攻に関しては技術の高度化が観られた。

最後に、ゲームとは直接関係はないがチェコが分裂し、チェコ・スロバキアとして最後の試合終了の際、観客全員が立って拍手で見守ったことに對して、やはり同じヨーロッパでの変化への関心の高いことをあらためて感じざるを得なかった。

広島アジア大会レポート



第12回アジア競技大会
広島1994

ハンドボール競技に 男女14チームが参加予定

アジア大会担当常務理事 山下 泉

第12回のアジア大会1994年の開催まであと1年5か月と迫り、大会のメイン会場となる広島広域公園陸上競技場をはじめ、施設は相次いで完成しています。また、数多くの選手団を受け入れる新広島空港、観客の輸送の一翼を担う新交通システムなども着々と工事が進められています。

ここで広島大会の概要をご紹介します。1994年10月2日(日)から16日(日)までの15日



アジア大会の行われる広島広域公園全景



陸上競技などが行われるメインスタジアム



右はハンドボール会場。左は屋内プール

間、広島市を中心とする県内各地で開催されます。実施されるのは34競技、237種目と芸術展示です。また選手役員数は約7300人を見込んでおり、昭和39年の東京オリンピックに匹敵する規模で、日本史上最大の国際的な総合スポーツ大会となります。広島で開催する意義として挙げられるのは、①国際平和都市への貢献②スポーツ振興③都市基盤の整備、以上3点です。原爆被災という人類史上

例を見ない惨過を体験した広島市は、都市像として「国際平和文化都市」を掲げ、恒久平和の実現を訴え続けています。アジアの若人がスポーツを通じて交流し、相互理解を深めることは世界平和に貢献するもので、大変有意義な大会です。広島大会はスローガンの通り「ASIAN HARMONY」を高くに奏でることを思います。資金的にも最大であり、都市基盤整備の事業費は約1兆5千億円、



ハンドボールのマスコットキャラクター

参加国は男子9チーム、日本、韓国、北朝鮮、中国、パレーン、クウェート、イラン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、女子5チーム、日本、韓国、北朝鮮、中国、中華台湾の計14チームです。

運営費は25億円を見込んでいます。参加国の増加や競技数、参加選手の増加等相当膨れるものと思います。現在時点で約50億円の資金不足と発表され、ここでもパブル経済の破綻の影響をものに受けております。一昨年実施されたアジアハンドはまだパブルの余韻が残っており、多額の資金を調達出来、無事大会を成功裡に終了することが出来、安堵しております。

アジアオリンピック評議会(OCA)の会長は創立以来クウェートのシェイク・ファハド・アル・サバ氏が務めてきましたが湾岸戦争で戦死され、子息のシェイク・アーマド氏が後任の会長に選ばれました。アジアハンドボール連盟(AHF)の会長はシェイク・ファハド氏が務めていました。広島アジア大会の誘致に多大の貢献をされた荒川前副会長より聞いております。

ハンドボール競技の予想される参加国は男子9チーム、日本、韓国、北朝鮮、中国、パレーン、クウェート、イラン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、女子5チーム、日本、韓国、北朝鮮、中国、中華台湾の計14チームです。

一チーム選手16名、役員4名の計20名。エントリーの締切日は、1994年5月5日迄に広島アジア競技大会組織委員会(HAGOC)に必着となっている。会場は広島市東区スポーツセンターです。運営面についてはアジア選手権大会の経験を生かし、日本協会・広島県協会が一体となり、スムーズな運営を心掛けたと思っています。

日本チームのアジア大会での優勝を願っております。先日、全日本男子の蒲生晴生監督が広島でアトラクタ五輪の前に広島アジア競技大会がある。ぜひ金メダルを取りたい」と発表されましたが、とにかく勝つことがハンドの発展につながることにあります。

アジア競技大会はオリンピックの人気には及ばないにしても、決して広島でのローカル大会ではありません。閉議了解により立候補開会式では元首が開会を宣言致します。そして競技数、参加選手、役員数など、規模においても国家的な記念事業であり、広く国民のご理解、ご協力がなくては成功致しません。一層のご支援をお願い致します。

第18回日本リーグ展望

男子は湧永と日新の争い必至!?

広報委員会 鬼田 健一

★女子

女子は、オムロンを北国銀行、シャトレレーゼ、二部より昇格した日立栃木の3チームが追従すると思われるが、特にオムロンのデューフェンスには、各チームとも苦戦が予想される。オムロンは、昨シーズン最終戦で北国銀行を振り切り優勝したパワーと安定感が他を一歩リードしている。抜群のデューフェンスに加え、速攻、長身の張(183cm)を中心とした攻撃は昨シーズンと変わらない。張の大きな体を生かしたデューフェンスはチェックが厳しく、他チームの選手にとって脅威になっている。また、即戦力新人に西村(武庫川女子大・高橋(殖産銀行))を迎え補強面でも充実している。また今シーズン限りで引退が予想される比嘉の華麗なプレーに注目があつまる。北国銀行は、昨シーズン限りで4名引退したが、新旧交代もスムーズに進み、今年もオムロンを追従する筆頭になりそう。攻守の要松田は、谷本や成長著しい上出をリードし、絶妙なパスワークをすると思えば、自らシュートを決めるなど、北国銀行のコントロールタワー的存在で期待があつまる。ポイントゲッター金の抜けたあとには、韓国光州市庁より白をむかえるなど、得点力での対策は問題ない。気になるのがデューフェンス

力で、総失点が多いことや、昨シーズンの警告・退場数(フェアプレーポイント)が6チーム中最多と課題も多く、先の対オムロンとの最終決戦では、後半かさんでいた警告が退場につながり、その間に加えられ逆転負けでリーグ初制覇を逃している。シャトレレーゼは、昨シーズンデューフェンスを課題に戦ってきた結果、過去最高の3位と上位定着を目指す。GK村山は、全日本合宿でのシュートから各選手の動きをおぼえ、それがリーグでの活躍となっている。各チームの中心選手は、全日本合宿で一緒に練習しているため、GK村山を苦手とする選手が多い。これより上位をねらうには、小松の長身(179cm)を生かしたプレーが続けば、オムロンを脅かす存在となりそう。またベナルティスペシャリスト小俣には、元日本ビクター長田の記録(年間PT43点)更新を期待する。

★男子

男子は、今年も最終的には東京体育館で、プレーオフが行われるが、そこに上がっていくと思われるのは、湧永製薬、日新製鋼。その他は、一線上で並ぶ。

日立栃木は、陳、蔣が2年目で一段の活躍が予想される。よくオムロンの張と比較されるが今年は、一部復帰で二度の対戦があり注目される。全日本のアタッカーと期待されている貴田(174cm)がシャトレレーゼ小松同様、ロングシュートを連打できれば上位進出へとつながる。また日立栃木のポイントゲッター新井、チームの要市来が一部でパワーとテクニクのプレーを見せてくれそう。上昇中のブラザーは、学生界出身の日比野、田島、西が社会人2年目で、特に昨シーズン前半けがで出遅れた分、日比野、西は燃えている。毎試合ウイングの田島、甲斐で10点、フロウターの日比野、西がミドルで10点以上得点することができれば一部定着も期待できる。二部の大崎電気は、韓国ナショナル選手を迎え、今年は一部復帰を目指す。先のバルセロナオリンピック・ゴールドメダリストの朴正林は、厚待遇で迎えられ、その期待度も相当なものになっている。湧永製薬は、抜群のデューフェンス力、昨シーズンチャンピオンに返り咲いた。個人得点では、ランキングベスト10に堀田がただ一人いるだけだ。チーム総得点で、

NEXT ONE—セノーイズム

Senoh®

限りない可能性に挑戦し、感動を勝ち取っていく——セノーの仕事もまた、スポーツそのものかもしれない。妥協のないセノーの“NEXT ONE”にご期待ください。



セノー株式会社
東京都千代田区神田司町2-7
☎03-3292-5411

日本ハンドボール協会検定品製造工場



今年は悲願のリーグ制覇なるか、日新製鋼

他をリードした。今シーズンも総合力で勝るので、プレーオフに必ず上がってくるだろう。玉村、酒巻、堀田のベテランはけがでもない限り昨シーズン同程度の活躍はできる。エース中山は多少むらがあつたが、今年はコンスタントに得点を重ね、日本のエースとしてランキングトップに上がって欲しいところ。

日新製鋼は昨シーズン最後にきてもたつき、悲願のリーグ制覇を湧永製薬にさらわれ、今シーズンに對する熱気を感じる。昨シーズン後引退かとさわがれた西山は監督兼任として初のリーグ制覇に挑む。あと5点と迫った通算最多新記録(612点)は、6月5日鈴鹿の本田戦か、6月12日金沢での大崎戦あたりに達成できそう。他



総合力で勝る湧永製薬は連覇か!?



選手の入替わった本田技研に注目

のメンバーは昨シーズンと変わりがなく、湧永製薬とトップを競う存在になりそう。リーグトップになるには、ディフェンス力を養うにつることで、女子の北国銀行に類似する。得点力では湧永製薬を勝り、レギュラー全員に得点力があり、今シーズンこそ西山新監督でリーグ制覇に期待が大きい。

本田技研は、立本新監督、内藤新コーチに代りだしい選手も入れ代わった。レギュラー陣の引退により、学生界から即戦力として満井(中大)、谷村(大阪経大)、井上(順天堂大)、日原(名城大)ら185cmクラスをそろえた。この新人たちがディフェンスと速攻の足を使ったスピードハンドボールを早く習得し、レギュラーとして活躍できるかに掛かっており、苦戦を強いられそう。

大同特殊鋼は、昨シーズン湧永製薬、日新製鋼に一勝もすることができず低迷した。韓国ナショナルチームの合宿参加で出場できなかったエース林、ポイントゲッター末岡には、他チームからのマークがきつくなるなど、リーグ前半の不調が最後まで尾を引いた。今シーズンは、高村新監督兼任での出直しスタートとなる。

大崎電気は宮下が引退しただけで、昨シーズンとメンバーは変わらない。甲斐、魚住の中堅選手に

對する期待は大きい、それに続く若手の成長が今ひとつで、プレーオフまで上がるのはやや苦しいところ。

中村荷役は、昨シーズン後半見事な追い上げをみせた。青森の日新製鋼戦と呉の湧永製薬戦では、横綱相撲をみせた。その勢いを今シーズン中維持できれば、ホーム東京体育館でのプレーオフが期待できる。

今シーズンの注目は何と云っても三陽商会である。大型ルーキー岩本(早大200cm)が入り話題独占になりそう。キャプテン田中左腕渡辺、ポスト小河原ら全日本メンバーに岩本が加わり、他チームからのマークがきつくなる。昨シーズンは、試合前半リードして後半逆転負けするパターンがよく見られたが、岩本効果でリードを保てるか。そしてプレーオフ出場に期待をつなぐことができるか。三陽戦観戦に足をはこぶ回数が増えそうである。

合宿・国内外遠征から
ご家族の旅行まで
なんでも手配致します



明日の勝利の為に
私達が役立ちます

株式会社 エモック・エンタープライズ

〒105 東京都港区西新橋1-17-4 Y・Kビル1F

TEL: 03-3507-9777 FAX: 03-3507-9771

運輸大臣登録一般旅行業 第1141

一般旅行業務取扱主任者 田川正明

小学生ハンドボールの現状と普及対策の検討課題

日本ハンドボール協会普及担当

小西 博喜

はじめに

京都国体後、第1回目のスタートをした全国小学生大会も本年は第6回が開催されるまでに至ったが、全国47都道府県中26府県の参加チームでは、まだまだマイナースポーツの域から脱していない発展途上の実感がある。しかし、現

状のままでは、全国大会とはいっても年々わずかな増加しかみられず、極めて厳しい社会体育環境に置かれている状況である。今回は第5回大会参加チームのアンケート調査結果から参加チームの現状を分析し、普及活動の積極的な拡大を図る意味でその問題点を模索し、基礎資料として報告する。

一、スポーツ少年団育成に関する問題点

現状の学校教育の中では課外活動としてのクラブ活動として位置づけられているが、年間を通してのハンドボールチーム編成は困難である。それは学童野球、ミニバレー、少年サッカー等に所属しているクラブ員が多く、ハンドボール部員として固定化することは極めて難しい。さらに地域ごとにスポーツ少年団があり、夏は野球、冬はサッカー、ハンドボールという形で、シーズン制に分けて課外活動として行っている。

しかし一方、地域スポーツのハンドボール指導者が余りにも少なく、かりに指導者がいたとしても果してハンドボール指導者を引き受けて貰えるか否か、地域におけ

る協力体制の組織配置図が十分整備されていない悩みもある。つまり、その指導者はボランティア活動という広域のワクの中で善意に好意的な形の依存範囲に留まっておき、限られた活動制限の中で指導している状況である。その現場では実際のハンドボール技術指導が出来る経験者の絶対数が不足しており、大きな普及ブレイクとなっていない。また子どもたち自身も少年サッカー、学童野球に比べてハンドボール競技そのものが、イメージとしてマイナースポーツの類に置かれていることから、あえてハンドボールを希望する子どもも集団が出来にくいというのが実情であろう。

このようにハンドボールクラブの位置づけが社会体育とも学校体育ともいえない現状では、直ちにハンドボール少年団として発展する可能性の条件がいささか不十分な感じがする。何はともあれ指導者のあらゆる事情によって、今後この地域におけるハンドボールクラブが継続して活動出来るかどうか、常に検討の余地が残されている状態である。しかし、一例をあげると、中田ハンドボール部(広島)は湧永製菓ハンドボールチームの指導を受けているが、これはまさに社会体育の意義を十分充足した支援体制であり、理想的なモデルケースといえる。このように、かりに実業団チームの所在する地域でハンドボール少年団チーム育成に協力が得られるならば、社会的貢献度はさることながら子どもたちにとって、もつと身近な「親しめるハンドボールの魅力」を発見することができよう。

また今後、小学校児童数が減少するため、国体ハンドボール開催府県地域において、地域ぐるみのハンドボールスポーツ少年団育成活動が、香川県ハンドボールスポーツ少年団のように誕生すれば、これもまた素晴らしい育成事業である。これらの発展の糸口は指導者に依存する面が多く、教員の場合には転勤があるため、中には折角のチームが自然消滅に追い

二、小学生ハンドボール指導上の問題点

(1) 指導者への悩み

全国的にみてハンドボール指導者数はメジャー数には及ばないが、特に小学校ハンドボール経験者の教諭が少ないのが最大の悩みのタネである。また、女子指導者の教諭が少ないのも、健康管理面での実地指導が効率的にできない理由となっている。

一方、転勤後の後任探しで依頼をしても仲々協力が得られず、チームが立ち消えになってしまう例もある。素人指導者でも十分にルールや基本的な指導内容の理解がないとハンドボールに対する関心も薄くなり、指導者自身の興味を欠き、魅力を失ってしまう。ここにも協会自体の大きな悩みが存在する。

(2) 練習場所・練習回数・時間等の悩み

小学校のグラウンドには、サッカー、バスケットボールは置かれているが、ハンドボールゴールポストは仲々見当たらない。各指導者はコートの借用、ゴールポストの購入、コート作り等、まず週・月間計画作成に大きなエネルギーを費やしている。したがって、各都道府県協会組織をベースにした普及事業に対する認識を理解を得て、協会組織で機能した協力がないと行きづまりは早い。

学校ハンドボールクラブでは、学校施設を利用した週1~2回程度の頻度が多く、ルールをマスターしたり、シュートフォームの形成等、多くの時間を要するが、子どもたちは他競技とカケ持ちのため日曜日は特に試合が重複し、最終的には親の意見で他の競技に流れてしまうケースが多い。

込まれてしまうこともある。現在、全国的に各種のブロック大会が開催されているが、経済的な面で全国大会出場までは派遣員の負担が難かしいという事情もあり、マイナースポーツの実態を痛感する。そのため、少なくともこの全国大会は、全都道府県参加が図れるような対策を検討する時期であり、経済的支援体制の協賛する冠スポンサー、さまざまな協賛形式で関心を集めなければならない課題をかかえている。

三、小学生ハンドボールの要望課題

(1) 小から中へのバトンタッチ
小学校でハンドボールに興味を示した子どもたちは、進学する中学校にハンドボールクラブがないため、他種目に転向しなければならぬミスマッチが生じている。このような一貫性指導の不備な点を社会体育領域のカテゴリーでハンドボールスポーツ少年団育成は各都道府県協会に課せられた急務であり、競技力向上へつなぐ大きなカケ橋である。ことに(財)日本中体連ハンドボール部が平成5年度から日本協会の加盟が承認されたことから、運動する普及事業として小学生育成事業は重点施策となってきた。したがって、小学生チームの所属する近隣中学校スポーツ関係指導者との情報交換はもとより、相互間のポリシイにかかわる理解が求められ、広域スポーツ組織のコンセンサスを得て協力支援体制を小・中・地域ハンドボール指導者の間で打ち出し、地方協会機関と柔軟的な対策を講じてほしい。

(2) まず「資金づくり」の模索
ハンドボールスポーツ少年団育成のために、全国大会派遣活動経費に関する経済的支援体制の協賛企業スポンサーについての検討、民間の地域ぐるみ、地方協会との人材の再生産が構築できるよう、各都道府県協会理事長を中心に各行政、民間機関とのタイアップしたアプローチを如何にコンタクトすればよいのか、その調整が小さくても多くの「スポーツ組織努力」を結果するエネルギーの生産は欠かすことができない資源であり、JOCジュニアオリンピックカップ大会との一貫した普及対策事業として一石を投じる課題といえよう。

(3) ハンドボールスポーツ少年団加盟のすすめ
さて、本大会は全都道府県協会参加を目指しているが、大会の性格上、現時点では学校体育から社会体育事業に発展させる必要性があり、本調査によってもスポーツ少年団大会に参加の意義を求めている傾向がみえることは注目している。また現在、その過渡期にあることも理解できる。なお、小学校体育の教育課程の中にハンドボール教材を取り入れる努力と併せて、各都道府県協会にハンドボールスポーツ少年団の誕生が頂点強化を必要性感ずる。

(4) 成果と今後の課題
スポーツは今、質的な変化が求められている。「マスコミが記事を書き、テレビの画面になる頻度が増えて、視聴率がよければ人気は出てくる」そのために企業、スポーツ組織両者と親密な関係を持ち、人気が出てくれば、企業はそのスポーツに便乗することは間違いない。その意味で普及推進活動は、小学生版の簡易ルールブックやトレーニングブックなど、ミニハンドボール用の手引書も必要だし、指導者研修、講習会も開催し、多面的柔軟性のある指導者づくりの必要性を感じる。

目指す普及強化方針は本事業の主眼なテーマでもある。さらに各都道府県協会へ加盟登録をして、初めて正式な発足とみられる。現在、ボールの規格変更を検討し、つかみ易い安全性の高いボールの大きさ、固さ等を考慮した高学年用、低学年用ボールを試作中であり、本年度の大会時には展示する予定。また第7回大会時から使用球として採用を予定されている。このことを含めて、ハンドボールスポーツ少年団育成に活気的なインパクトを与え、全国ハンドボール指導者の総力を結集し、マスコミを動かし、ハンドボールスポーツ少年団誕生からJOCジュニアオリンピックカップ育成に続く活性化は、サバイバルの支援体制としてまさしく選手強化の競技力向上に連動するであろうし、目前に控えたアジア・世界に子どもたちのために、そのエネルギーが今要求されているのではなかろうか。

小学生ハンドボールチームに関する調査

| 都道府県名 | 男 | 女 | 混合 | スポ 少 | 体協 | 計 |
|-------|----|----|----|---------|----|-----|
| 北海道 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 青森県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岩手県 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 宮城県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 秋田県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山形県 | | | | 4 | 4 | 7 |
| 福島県 | 0 | 0 | 9 | 8 | 7 | 9 |
| 茨城県 | 2 | 1 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 栃木県 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 群馬県 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 埼玉県 | 0 | 0 | 3 | 3 | 3 | 4 |
| 千葉県 | 1 | 2 | 0 | 3 | 1 | 3 |
| 東京都 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 神奈川県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山梨県 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 新潟県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長野県 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 3 |
| 富山県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 石川県 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 福井県 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 静岡県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 愛知県 | 11 | 3 | 4 | | | 18 |
| 三重県 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 |
| 岐阜県 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 滋賀県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 京都府 | 11 | 7 | 1 | 2 | 0 | 19 |
| 大阪府 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 兵庫県 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 奈良県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 和歌山県 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 鳥取県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 島根県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岡山県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 広島県 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 山口県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 香川県 | 4 | 4 | 0 | 2 | 2 | 8 |
| 徳島県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 愛媛県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 高知県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 福岡県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 佐賀県 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 長崎県 | 3 | 2 | 0 | 0 | 5 | 5 |
| 熊本県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 大分県 | 3 | 9 | 0 | 12 | 12 | 12 |
| 宮崎県 | 0 | 0 | 3 | 1 | 3 | 3 |
| 鹿児島県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 沖縄県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総合計 | 46 | 37 | 31 | 44 | 42 | 121 |

(平成4年12月実施)

各地の大会結果

関東

千葉県高校新人大会

(1月15・17日/佐原市民体育館)

他)

男子

土気

国府台

専大松戸

柏陵

市川

東邦

拓大紅陵

八千代

柏南

流山中央

東京学館

二松沼南

市川

八千代

流山中央

二松沼南

準決勝

市川

八千代

流山中央

二松沼南

市川

二松沼南

決勝

二松沼南 19

10 9
9 6

15市

川

女子

昭和学校

若葉看護

佐原

生浜

東葛飾

明徳

東邦

昭和学校

生浜

東葛飾

準決勝

昭和学校

東邦

東葛飾

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

昭和学校

愛知県高校新人大会

(1月15・17・24日/名古屋市中区)

東海

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

昭和学校

東邦

春日井

武豊

春日井

武豊

春日井

武豊

春日井

武豊

春日井

武豊

春日井

武豊

春日井

武豊

春日井

武豊

三重県中学生新人大会

(1月24・31日/四日市霞ヶ浦体育館他)

名短付

東海

名短付

東海

名短付

東海

名短付

東海

名短付

新しい時代を作ってゆくのは、

新しいひらめき。

そして、ひらめきを実現してくれる

素材が求められます。

常に新しい技術で新しい夢をかなえる

素材をお届けしてきた日新製鋼。

これからも時代に応える

新しい素材をみつめてゆきます。



明日の素材をみつめる



日新製鋼

東京都千代田区丸の内3-4-1
(新国際ビル) ☎03-3126-5511 〒100

[illegible]

| | | | | | | | | |
|----------------------|--|--|--------------|--|--|----------------------|--|--|
| 鹿兒島県高校選抜大会 | | | 九州 | | | 鹿兒島県高校選抜大会 | | |
| (1月16・17日／国分市総合体育館他) | | | 九州 | | | (1月16・17日／国分市総合体育館他) | | |
| 鹿兒島工 | | | 鹿兒島工 | | | 鹿兒島工 | | |
| 20 16 33 | | | 20 16 33 | | | 20 16 33 | | |
| 11 8 18 | | | 11 8 18 | | | 11 8 18 | | |
| 出 水 | | | 出 水 | | | 出 水 | | |
| 鶴 大 | | | 鶴 大 | | | 鶴 大 | | |
| 水 丸 島 | | | 水 丸 島 | | | 水 丸 島 | | |
| ▼決勝リーグ | | | ▼決勝リーグ | | | ▼決勝リーグ | | |
| 鹿兒島工 | | | 鹿兒島工 | | | 鹿兒島工 | | |
| 20 16 33 | | | 20 16 33 | | | 20 16 33 | | |
| 11 8 18 | | | 11 8 18 | | | 11 8 18 | | |
| 出 水 | | | 出 水 | | | 出 水 | | |
| 鶴 大 | | | 鶴 大 | | | 鶴 大 | | |
| 水 丸 島 | | | 水 丸 島 | | | 水 丸 島 | | |

| | | | |
|---------------------|----|----|-------|
| 鶴丸 | 18 | 17 | 大島 |
| 出水 | 12 | 9 | 大島 |
| 鹿兒島工 | 16 | 7 | 鶴丸 |
| 〔順位〕①鹿兒島工業②出水③鶴丸④大島 | | | |
| 〔女子〕 | | | |
| ▼決勝リーグ | | | |
| 鹿兒島南 | 20 | 5 | 奄美 |
| 大島 | 10 | 6 | 国分実業 |
| 鹿兒島南 | 15 | 6 | 鹿兒島純心 |
| 大島 | 15 | 13 | 奄美 |
| 鹿兒島純心 | 13 | 10 | 国分実業 |
| 鹿兒島純心 | 8 | 5 | 奄美 |
| 鹿兒島南 | 14 | 8 | 大島 |
| 国分実業 | 11 | 8 | 奄美 |
| 大島 | 14 | 8 | 鹿兒島純心 |
| 鹿兒島南 | 17 | 7 | 国分実業 |
| 〔順位〕①鹿兒島南②大島③鹿兒島純心 | | | |
| 鹿兒島県中学校新人大会 | | | |
| 〔1月9・10日／鹿兒島アリーナ〕 | | | |
| 〔男子〕 | | | |
| ▼準決勝 | | | |
| 国分 | 15 | 9 | 東谷山 |
| 重富 | 15 | 9 | 伊敷 |
| ▼決勝 | | | |
| 重富 | 10 | 11 | 6国分 |
| 富21 | 4 | 2 | |
| 〔女子〕 | | | |
| ▼準決勝 | | | |
| 鹿兒島南 | 13 | 8 | 重富 |
| 伊敷 | 24 | 7 | 国分 |
| ▼決勝 | | | |
| 鹿兒島南 | 6 | 6 | 10伊敷 |
| 大附属12 | 4 | 6 | |

**USA**

大崎電気工業株式会社

東京都品川区東五反田2-2-7 〒141

TEL.03(3443)7171 FAX.03(3447)5844

日本協会だより

■ 4 月度常務理事会

4月10日(土) 於: 日体協会議室 出席: 中澤専務理事、松本監事他9名

中澤専務理事より平成5・6年度の目標は平成6年10月に開催されるアジア大会を成功させることとし、これに全力を上げるので協力してほしい。懸案事項の解決のためにワーキンググループを設けて推進する。

【議事】

1. 5年度事業日程の確認(大会日程の一部に諸会議が含まれているものがあったので、これを訂正し、試合日のみを表示した)

2. 常務理事会日程変更

7月17日→7月10日

9月11日→9月18日

1月15日→未定

常務理事会と全国理事会が同月に開催される場合(6・11・12月)、原則として全国理事会に集約する。

3. 日本協会に関連する外郭団体役員分掌者は次の通り決定。

◇アジアハンドボール連盟
理 事 渡邊佳英

競技組織委員会委員 井 薫
コーチ方法委員会委員 大西武三
医事委員会委員 西山逸成
◇日本オリンピック委員会

競技団体選出評議員 渡邊佳英
総務委員会委員 中澤重夫
選手強化本部委員 市原則之
主任強化コーチ 井 薫

◇日本体育協会
競技団体選出評議員 中澤重夫
スポーツ指導者連絡会議

競技団体選出委員 大西武三
国体委員会委員 清水 正

◇アジア大会 広島組織委員会
競技団体選出専門委員 山下泉

◇ユニバーシアード委員会
委員 中澤重夫

◇スポーツ安全協会
競技団体選出委員 荒川清美

4. 各委員会委員について

(1) 会計委員長 殿水常務理事に委嘱

(2) 全委員会委員は再度調整をし、5月度常務理事会で承認、委嘱する。

5. 平成5年度登録について

(1) 登録料はチーム登録料、オリンピック基金、機関誌購読料に分割せず一括を原則とす

る。

(2) 機関誌単独購読者の扱いについては従来の通りとする。

6. 賛助会について

(1) 役員賛助会費…理事会決定通り5年度より徴収する。

(2) 会費納入時期変更…従来は各月々に加入・更新を行って来たが、今後は年度会費とし、4月に新規加入・更新を行うこととする。

7. 審判委員会報告

スウェーデン・トップレフェリーによる審判講習会を5月14日に開催。 以上

■東北ブロック選出参事に加藤岳郎氏

本誌5月号に掲載した「日本協会役員」の記事中、未決定だった東北ブロック選出参事は加藤岳郎氏に決定しました。

■訂正とお詫び

本誌5月号でお知らせした役員名に誤りがありましたので、下記の通り訂正し、お詫び致します。

【訂正前】

渡辺 佳英

中沢 重夫

楠戸 榛久

【訂正後】

渡邊 佳英

中澤 重夫

楠戸 榛也



OMRON

みんなの暮らしを
もっと便利に、
みんなの気持ちを
もっと豊かに。

事業を通じて、世の中をより快適で便利に。

そして文化活動を通じ、

好奇心や創造性を刺激するような場を。

オムロンは21世紀に向けて、誰もが幸せに暮らせる
「最適化社会」の実現をめざしています。

社会を豊かに、おもしろくするオムロン

オムロン株式会社

本社 〒600 京都市下京区烏丸通七条下ル
東京本社 〒105 東京都港区虎ノ門3-4-10

Your Daiwa Staff

ライフプランは暮らしの中でも大きなテーマです。このテーマにトータルにお応えできるのが〈ダイワ〉です。信託もできるべんりな都市銀行として、財産の管理と運用、不動産の売買仲介と有効利用、年金や相続・贈与の設計、ローンのお世話から自動サービス、さらに国際業務と、幅広くバックアップさせていただきます。お客さまとともに明日を創造するBank〈ダイワ〉をぜひご活用ください。



Daiwa Bank

大和銀行



ーパーシュートを見せてほしい。

踏み付け部エッジの傾斜が、スパイラルソールが、そしてαゲルが、果敢な攻撃を可能にする。



品名 スカイハンド® ジャパンα-S 品番 THH 711

メーカー希望小売価格 ¥16,000(消費税抜き)

カラー/ ●ホワイト×●レッド・マリンブルー ●ホワイト×●マリンブルー・レッド

サイズ/22.5-29.0cm

α GEL



アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

asics
ATHLETIC SHOES

株式会社 アシックス

●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL (078) 303-2233(専用)・(078) 303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL (03) 3624-1814(専用)・(03) 3624-2221(大代表) ■◎は®アシックスの登録商標です。

Mizuno[®]
THE WORLD OF SPORTS

攻守を加速する
新戦力ライオンアップ。



ウイングゾーン EX-L ¥14,000
16KH-20114 サイズ:23.5~28.0
ホワイトにネイビー・ゴールド 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂



ウイングゾーン EX-S ¥13,000
16KH-21162 サイズ:23.5~28.0
ホワイトにレッド/シルバー 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂



16OH-202 ¥4,700
株定球
電甲型 天然皮革2号 HL-2



16OH-203 ¥4,800
株定球
電甲型 天然皮革3号 HL-3



16OH-212 ¥4,400
株定球
電甲型 天然皮革2号 HL-2A

RunBird
ATHLETIC FOOTWEAR



スポーツあげたい、
スポーツほしい。
全国共通スポーツ券

●記載価格は税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。●ミズノ製品についてのお問い合わせは「ミズノお客様商品相談センター MUSIC」
東京 TEL.(03)3233-7110 大阪 TEL.(06)614-8110